

Canon

EOS M2

EOS M2 (W)



使用説明書（基本編）

本書は、簡単な撮影ができるまでの基本的な操作方法や機能を説明した「基本編」です。より詳しい内容については、カメラ使用説明書CD-ROMに収録されている「カメラ使用説明書」を参照してください。

J

はじめに

EOS M2 は、有効画素数約1800万画素・高精細CMOSセンサー、DIGIC 5、ハイブリッドCMOS AF II、最高約4.6コマ/秒連続撮影、フルハイビジョン (Full HD) 動画撮影機能、Wi-Fi機能を搭載した、レンズ交換式高性能デジタル一眼カメラです。

本機は、すぐに撮影できる優れた機動性、高度な撮影に最適対応する豊富な撮影機能など、さまざまな特長を備えています。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。

なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』(11～13ページ)をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ(本機)やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラ(本機)で記録した画像やメモリーカードに取り込んだ音楽および音楽付き画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

使用できるカードについて

カードの容量に関係なく、下記のカードが使用できます。なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします（p.49）。

- ・SDメモリーカード
- ・SDHCメモリーカード*
- ・SDXCメモリーカード*
- * UHS-Iカード対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、大容量で、SDスピードクラス6「CLASS6」以上のカードを使用してください。

- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影中に静止画を撮影するときは、さらに高速なカードが必要です。
- カードの書き込み/読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

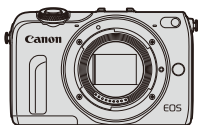


本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。

※ 画像を記録するカードは付属していません。別途ご購入ください。

カメラと主な付属品

ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



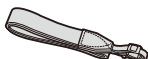
カメラ
(ボディキャップ付き)



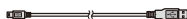
電池
バッテリーパック
LP-E12
(保護カバー付き)



充電器
バッテリーチャージャー
LC-E12



ネックストラップ
EM-100DB



インターフェースケーブル

- ※ 使用説明書とCD-ROMについては、次ページを参照してください。
- ※ レンズキットの種類により、レンズの使用説明書が入っていることがあります。
- ※ 付属品については、カメラが入っている箱で確認してください。
- ※ 付属品は、なくさないように注意してください。

使用説明書とCD-ROMについて

使用説明書は、「冊子」と「電子マニュアル」(PDF形式/CD-ROMに収録)で構成されています。冊子は「基本編」です。より詳しい内容は、カメラ使用説明書CD-ROMを参照してください。



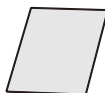
カメラ使用説明書
(基本編)



Wi-Fi機能 使用説明書
(基本編)



Wi-Fi機能規制に関する
ご注意



お客様ご相談窓口、
修理受付窓口一覧/
安全上のご注意



カメラ使用説明書CD-ROM

下記の電子マニュアル(PDF形式)が収録されています。

- ・カメラ使用説明書
- ・Wi-Fi機能 使用説明書
- ・EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STM 使用説明書
- ・EF-M22mm F2 STM 使用説明書
- ・マウントアダプター EF-EOS M 使用説明書
- ・スピードライト 90EX 使用説明書

カメラ使用説明書CD-ROMの見かたについては、102ページを参照してください。



ソフトウェアCD-ROM (EOS DIGITAL Solution Disk)

各種ソフトウェアが収録されています。ソフトウェアの概要やパソコンへのインストール方法については、106、107ページを参照してください。

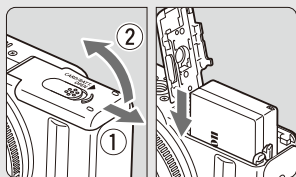


ソフトウェア使用説明書CD-ROM

ソフトウェアの電子マニュアル(PDF形式)が収録されています。ソフトウェア使用説明書CD-ROMの見かたについては、108ページを参照してください。

すぐ撮影するには

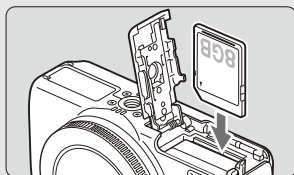
1



電池を入れる (p.26)

- 電池の充電方法については24ページを参照してください。

2



カードを入れる (p.26)

- カードの表を、カメラの正面側にして差し込みます。

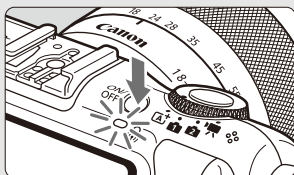
3



レンズを取り付ける (p.36)

- レンズの取り付け指標とカメラ側の取り付け指標を合わせて取り付けます。

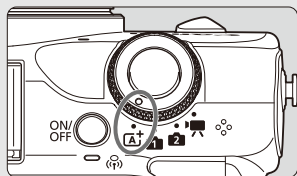
4



電源ボタンを押して電源を入れる (p.29)

- 液晶モニターに日付 / 時刻 / エリアの設定画面が表示されたときは、33ページを参照してください。

5



モードダイヤルを〈A+〉(シーンインテリジェントオート)にする (p.54)

- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

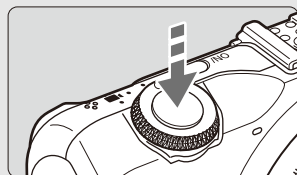
6



ピントを合わせる (p.41)

- 写したいものを画面中央に配置します。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

7



撮影する (p.41)

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

8






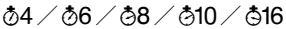
撮影した画像を確認する

- 撮影した画像が液晶モニターに2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます (p.96)。

- 今までに撮影した画像を確認したいとき：『画像を再生する』(p.96)
- 撮影が終了したら、レンズ保護のためレンズキャップを取り付けてください。

本使用説明書の表記について


本文中の絵文字について


-  : 電子ダイヤルを示しています。
-  : 電子ダイヤルの上下左右のボタンを示しています。
-  : 電子ダイヤルの中央のボタンを示しています。
-  : 操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒/6秒/8秒/10秒/16秒間保持されることを示しています。


* その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。


MENU : 〈MENU〉 ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。

(p. * *) : 参照ページを示しています。

 : 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。

 : 補足説明や補足事項を記載しています。

 : 上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。

 : 困ったときの手助けになる事項を記載しています。




操作説明の前提について

- 電源が入っていることを前提に説明しています (p.29)。
- メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMレンズを取り付けた状態で説明しています。





目次










はじめに	2
使用できるカードについて	3
カメラと主な付属品	4
使用説明書と CD-ROM について	5
すぐ撮影するには	6
本使用説明書の表記について	8
目次	9
取り扱い上のご注意	11
各部の名称	14

1 撮影前の準備と基本操作 23


電池を充電する	24
電池とカードを入れる／取り出す	26
電源を入れる	29
〈  〉電子ダイヤルと〈  /SET〉ボタン	32
日付／時刻／エリアを設定する	33
表示言語を選ぶ	35
レンズを取り付ける／取り外す	36
レンズの手ブレ補正機能について	38
撮影の基本操作	40
クイック設定	42
MENU メニュー機能の操作と設定	46
カードを初期化する	49
 画面にタッチして操作する	50
機能ガイドについて	52

2 かんたん撮影 53


 全自動で撮る (シーンインテリジェントオート)	54
 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート)	57
撮影モードを選ぶ (かんたん撮影モード)	59
 クリエイティブオートで撮る	60
 人物を写す (ポートレート)	65

 風景を写す (風景).....	66
 花や小物を大きく写す (クローズアップ).....	67
 動きのあるものを写す (スポーツ).....	68
 子供を写す (キッズ).....	69
 料理を写す (料理).....	70
 夜景と人物を写す (三脚を使う).....	71
 夜景を写す (手持ち撮影).....	72
 逆光シーンを写す (HDR 逆光補正).....	73
 セルフタイマー撮影.....	75
クイック設定で設定できる機能.....	76




3 オートフォーカス 77

ピントの合わせ方を選ぶ.....	78
AFでピントを合わせる (AF方式).....	79
 タッチシャッターで撮影する.....	86

4 動画を撮影する 87

 動画を撮影する.....	88
動画撮影時の INFO. クイック設定.....	91
動画記録サイズの設定.....	92

5 画像の再生 95

 画像を再生する.....	96
 タッチパネルで再生する.....	97
 動画を再生する.....	99

6 使用説明書 (CD-ROM) の見かた / パソコンに画像を取り込む 101

カメラ使用説明書 CD-ROM の見かた.....	102
パソコンに画像を取り込む.....	104
ソフトウェアの概要.....	106
ソフトウェアのインストール.....	107
ソフトウェアの使用説明書.....	108

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- カメラを強い光源（晴天時の太陽や人工的な強い光源など）に向けしないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風に当たったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- 指などでシャッターの動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズなどにゴミが付いているときは、市販のプロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食するとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。

- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- このカメラではレンズを取り外すと、撮像素子が見えます。撮像素子の損傷のおそれがありますので、撮像素子には触らないでください。
- 連続撮影や動画撮影を長時間行くと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録した画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにして、同じ画面が表示されていると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。
- 液晶の明るさ設定を変更すると、被写体によって画面が少し粗く見えることがあります。故障ではありません。また、記録した映像には影響はありません。

カードについて

カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らないでください。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

レンズについて

レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。



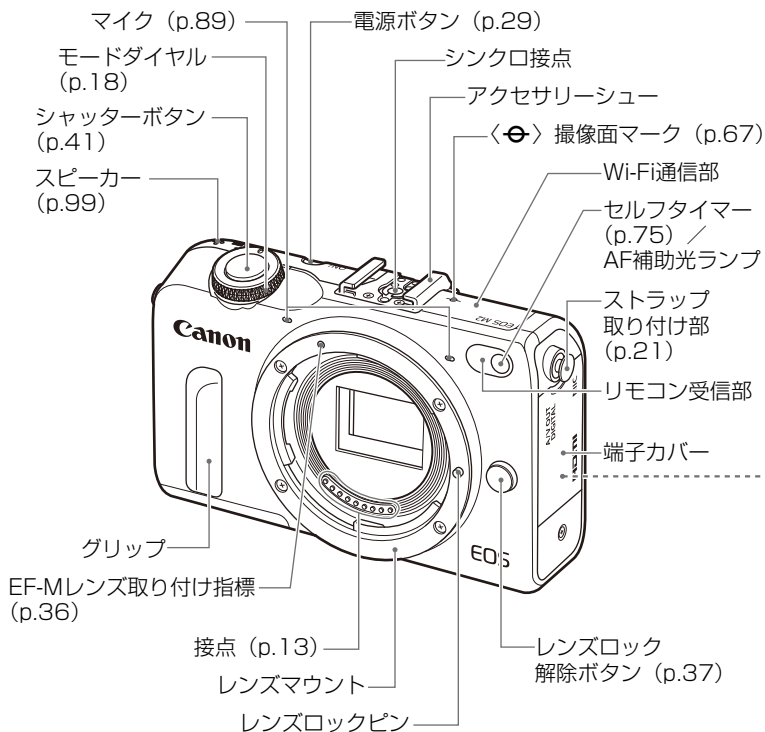
撮像素子の前面に付着する汚れについて

撮像素子の前面には、外部から入り込むゴミのほか、ごくまれにカメラ内部の潤滑剤などが付着することがあります。撮像素子の自動清掃後に汚れが画像に写り込むときは、できるだけ別紙の修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

レンズマウントについて

カメラ本体とレンズのマウント部分を、定期的に市販のレンズクリーナー（布製）で拭くことをおすすめします。

各部の名称

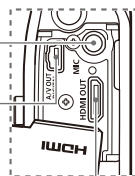


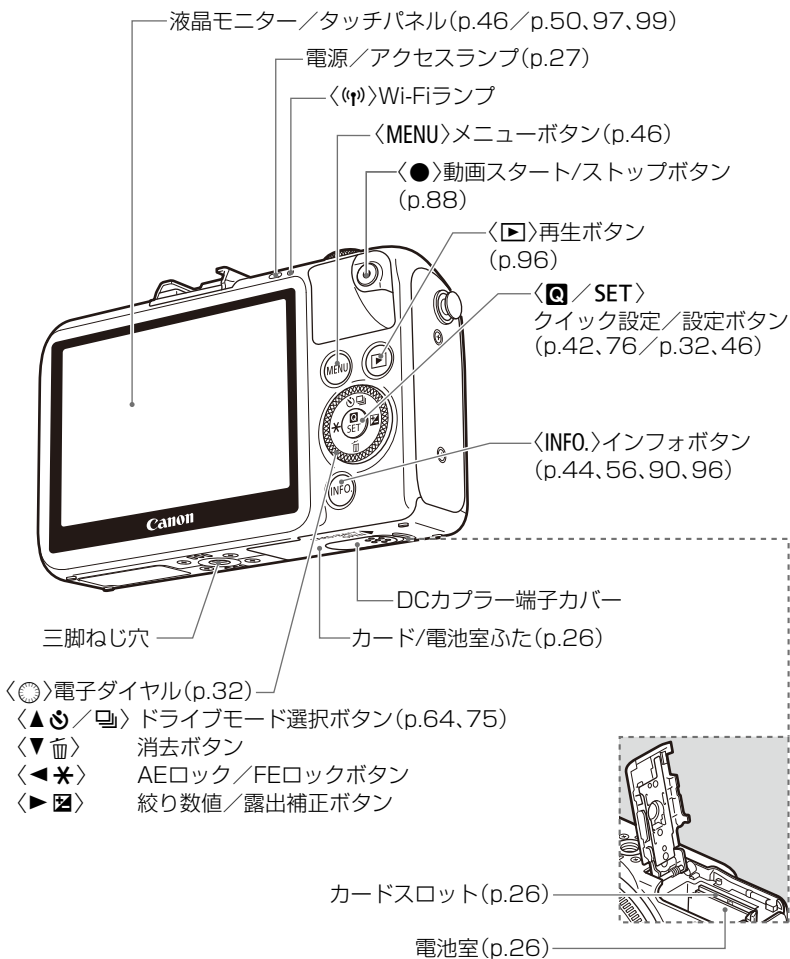
ボディキャップ (p.36)

〈MIC〉 外部マイク入力端子

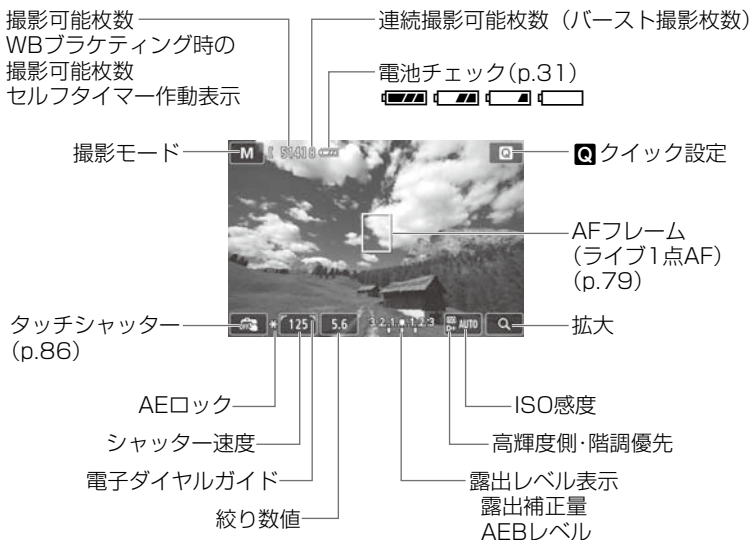
〈A/V OUT / DIGITAL〉
映像 / 音声出力・デジタル端子

〈HDMI OUT〉 HDMIミニ出力端子



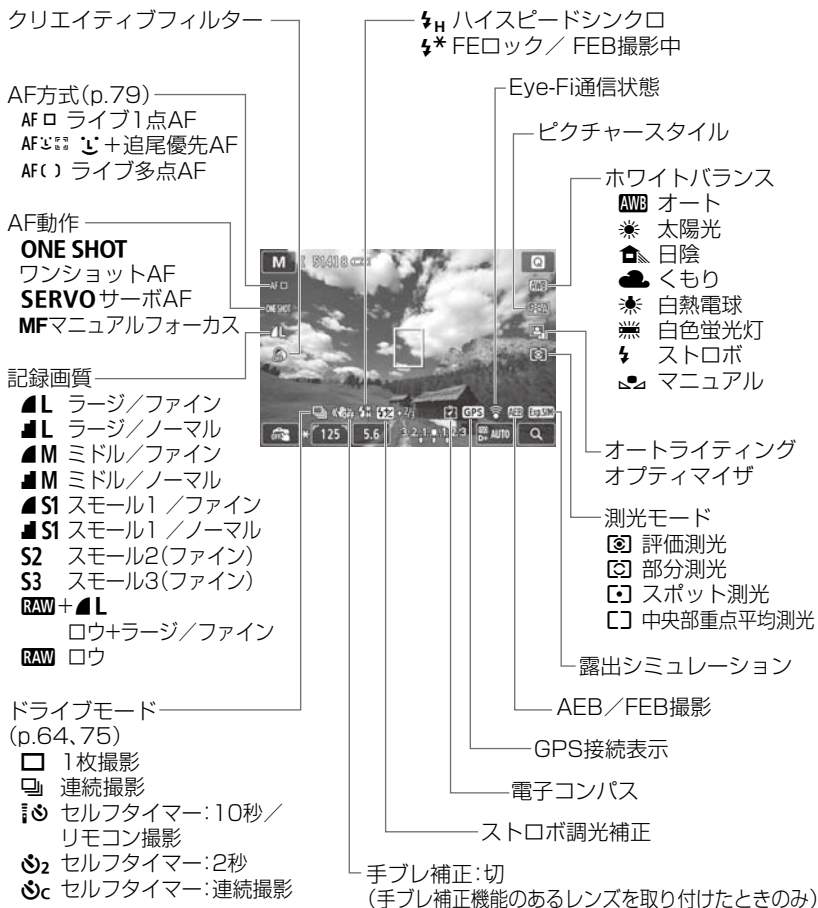


情報表示1：簡易表示（応用撮影モード時／p.18）



状況に応じた部分のみ表示されます。

情報表示2：詳細表示（応用撮影モード時／p.18）



状況に応じた部分のみ表示されます。

モード設定時、ストロボ使用時、バルブ設定時は、 とヒストグラムが灰色で（参考）表示されます。なお、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。

モードダイヤル

A+ : シーンインテリジェントオート

カメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的にに行います (p.54)。

1 : かんたん撮影モード

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体やシーンに応じてカメラまかせの撮影ができます。

CA : クリエイティブオート (p.60)

👤 : ポートレート (p.65)

🏞️ : 風景 (p.66)

🌸 : クローズアップ (p.67)

🏃 : スポーツ (p.68)

👦 : キッズ (p.69)

🍴 : 料理 (p.70)

🌃 : 夜景ポートレート (p.71)

📷 : 手持ち夜景 (p.72)

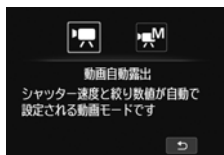
🌅 : HDR 逆光補正 (p.73)

🎥 : 動画撮影モード

動画を撮影できます (p.88)。

🎥 : 動画自動露出

🎥M : 動画マニュアル露出



2 : 応用撮影モード

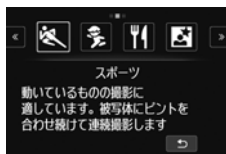
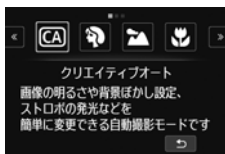
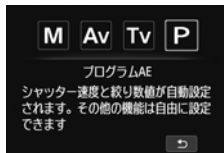
思いどおりのさまざまな撮影ができます。

M : マニュアル露出

Av : 絞り優先AE

Tv : シャッター優先AE

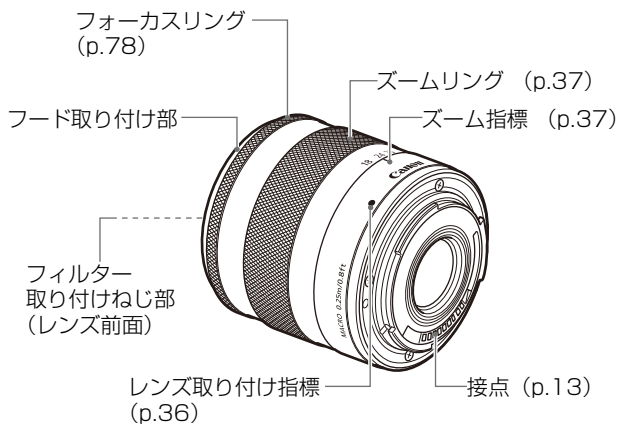
P : プログラムAE



レンズ

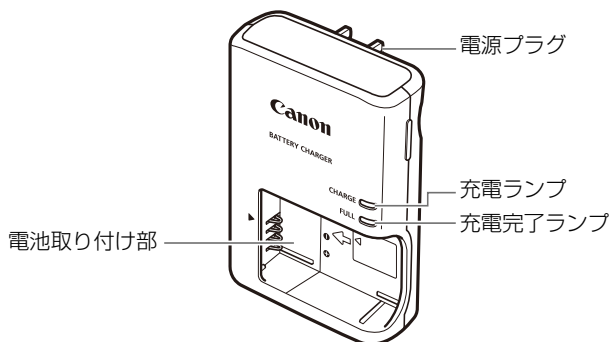
EF-Mレンズの例

(フォーカスモードスイッチ、手ブレ補正スイッチが付いていないレンズ)



バッテリーチャージャー LC-E12

バッテリーパック LP-E12を充電します (p.24)。



注意

指定外の電池を使うと、爆発などの危険があります。

使用済の電池は、各自治体のルールにしたがって処分するか、最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。



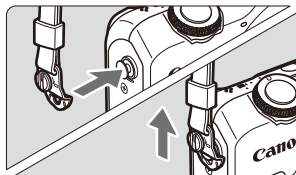
Li-ion

- 不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで最寄りの電池リサイクル協力店へお持ちください。詳細は、一般社団法人JBRCのホームページをご参照ください。

ホームページ：<http://www.jbrc.com>

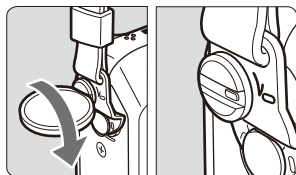
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

ストラップの取り付け方



1 ストラップの金具をカメラに取り付ける

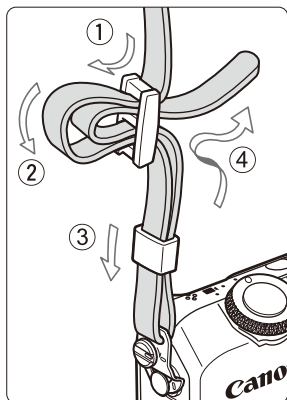
- ストラップの金具をカメラのストラップ取り付け部にはめ込みます。



2 ストラップの金具を固定する

- コインのようなものでネジ部を時計方向に止まるまで回転させます（指標が合います）。
- ストラップ金具に遊びがないことを確認します。

ストラップの通し方



- 番号順に、ストラップを通し、ストラップの長さを調節します。

アクセサリは、キヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリのご使用をおすすめいたします。

なお、純正品以外のアクセサリの不具合（例えばバッテリーパックの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

認証マークについて

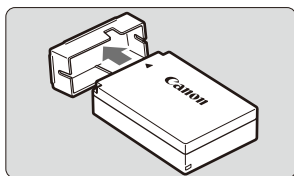
[▼4] タブの [認証マーク表示] を選び、〈SET〉を押すと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

1

撮影前の準備と基本操作

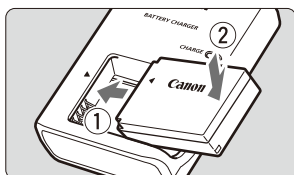
この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明しています。

電池を充電する



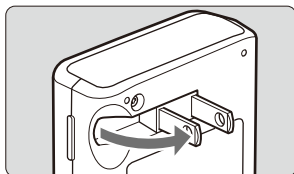
1 保護カバーを外す

- 付属の保護カバーを外します。



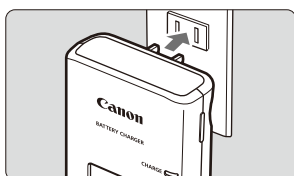
2 電池を取り付ける

- 電池の◀と充電器の▶を合わせ、しっかりと取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。



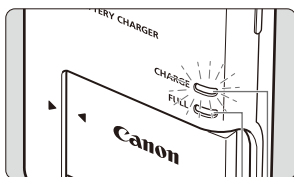
3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。



4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➔ 充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➔ 充電が完了すると、充電完了ランプが緑色に点灯します。



充電完了ランプ
充電ランプ

- 使い切った電池の充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間です。なお、充電時間は、周囲の温度や残容量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うために、低温下（+5℃～+10℃）では、充電時間が長くなります（最長約4時間）。

 **電池と充電器の上手な使い方**

- **ご購入時、電池はフル充電されていません**
充電してからお使いください。
- **充電は、使用する当日か前日にする**
充電して保管していても、自然放電により少しずつ電池の容量が少なくなっていくます。
- **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**
電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、電池寿命短縮の原因となります。電池の保護カバー（付属）を取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使えます**
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。プラグの形状が異なることがありますので、お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命です**
新しい電池をお買い求めください。

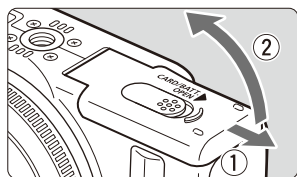
- **充電器をコンセントから取り外したときは、約3秒間、充電器のプラグに触れないようにしてください。**
- **バッテリーパック LP-E12以外は充電しないでください。**
- **バッテリーパック LP-E12は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。**

電池とカードを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E12 をカメラに入れます。カード（別売）は、SD/SDHC/SDXC メモリーカードが使えます。また、UHS-I 対応の SDHC/SDXC メモリーカードも使えます。撮影した画像はカードに記録されます。

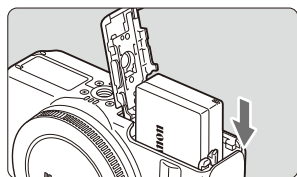
❶ カードの書き込み禁止スイッチが上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方



1 ふたを開ける

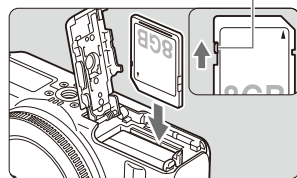
- 矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。



2 電池を入れる

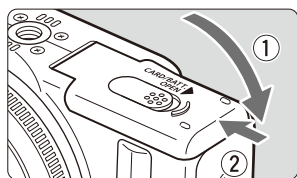
- バッテリーの「Canon」の文字がカメラの正面にくるようにして、電池接点の方から入れます。
- 「カチッ」と音がしてロックされるまでしっかりと入れてください。

書き込み禁止スイッチ



3 カードを入れる

- カードの表をカメラの正面側にします。
- まっすぐに、突き当たるまで差し込みます。



4 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。



撮影可能枚数

5 何枚撮影できるか確認する

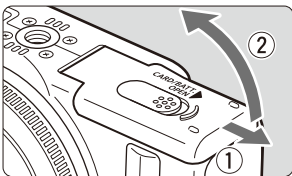
- 電源を〈ON〉にすると、カードにあと何枚記録できるかが、液晶モニターに表示されます。

取り出し方

1 電源を〈OFF〉にする

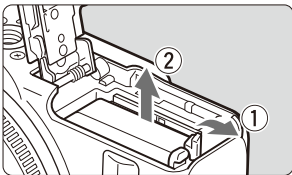
2 ふたを開ける

- 液晶モニターとアクセスランプが消えていることを確認して、ふたを開けます。
- [書き込み中...] と表示されたときは、ふたを閉じてください。



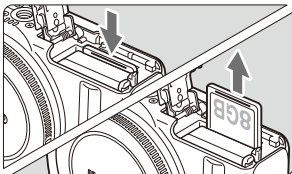
3 電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押し、ロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、電池に保護カバー（付属／p.24）を必ず取り付けてください。



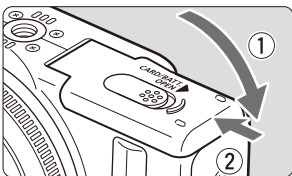
4 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと、出てきます。
- カードをまっすぐ取り出します。



5 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。



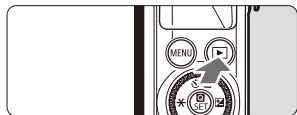
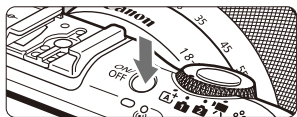
- カード/電池室ふたは、開いた状態から無理に押し開かないでください。ヒンジ部分が壊れる恐れがあります。
- アクセスランプがオレンジ色で点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カード/電池室ふたを開けないでください。また、アクセスランプがオレンジ色で点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になりますので、絶対に行わないでください。
 - ・カードを取り出す
 - ・電池を取り出す
 - ・カメラ本体に振動や衝撃を与える
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が 0001 から始まらないことがあります。
- 液晶モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。

なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください (p.49)。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの接点に、指や金属が触れないように注意してください。
- マルチメディアカード (MMC) は使用できません (カードエラー表示)。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などにより変わります。
- [📷1:カードなしリリース] を [しない] に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます。

電源を入れる

電源を〈ON〉にしたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、33ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。



電源ボタンを押すたびに〈ON〉、〈OFF〉が切り換わります。

電源〈OFF〉で〈▶〉ボタンを2秒以上押すと、再生モードになります。

- EF-Mレンズを取り付けていると、電源が切れているときは、カメラ内部保護のため、絞りを絞り込んでカメラ内部に光が入りにくくしています。そのため、電源を〈ON〉、〈OFF〉したときに絞りが動く小さな音がします。

撮像素子の自動清掃について

- 電源を〈ON〉〈OFF〉にしたときや、[▼2:節電機能]の[電源オフまで]の設定時間で電源が切れたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。電源を〈OFF〉にしたときは、清掃中に、液晶モニターに〈☒〉が表示されます。
- 電源の〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈☒〉が表示されませんが、故障ではありません。



カードへの画像記録中に電源を〈OFF〉にすると、[書き込み中...]が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

MENU 節電機能について

- 電池の消耗を防ぐため、何も操作しないと自動的に液晶モニターが消灯し、さらに、操作しない状態が続くと、自動的に電源が切れます。液晶モニターが消灯したときは、ボタン押しなどで液晶モニターが点灯します。電源が切れたときは、電源ボタンを押すか、〈▶〉ボタンを約2秒以上押し続けると電源が入ります。
- 画面が消灯するまでと、電源が切れるまでの時間を [▼2: 節電機能] の [液晶の消灯] と [電源オフまで] で変更できます。

⚠ 警告





長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合は、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

電池チェックについて

電池の残量は、電源を入れたときに、4段階で表示されます。



-  : 電池の残量は十分です。
-  : 電池の残量が少なくなってきましたが、まだ使用できます。
-  : まもなく電池切れになります。
(点滅表示)
-  : 電池を充電してください。

撮影可能枚数の目安

[約・枚]

温度	常温 (+23°C)	低温 (0°C)
撮影可能枚数	230	200

- フル充電のバッテリーパック LP-E12使用、CIPA (カメラ映像機器工業会) の試験基準によります。

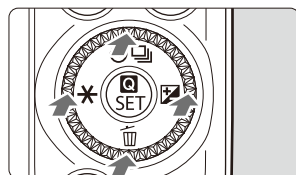
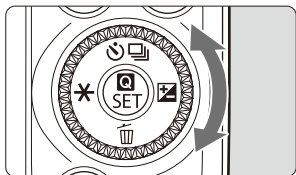


- 下記の操作を行うと、電池が早く消耗します。
 - ・シャッターボタン半押し状態を長く続ける
 - ・コンティニューAFを使用する
 - ・レンズの手ブレ補正機能を使用する
 - ・動画撮影を長時間行う
 - ・動画サーボAFを使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、電池が早く消耗することがあります。

〈☉〉 電子ダイヤルと 〈Q/SET〉 ボタン

電子ダイヤル

電子ダイヤルには、回す機能と上下左右を押して操作する機能があります。



電子ダイヤル 〈☉〉 を回す

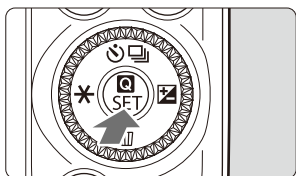
- 操作ボタンを押したり、画面のアイコンにタッチして、機能が設定できる状態で〈☉〉を回すと、主に横方向の選択ができます。
- 〈☉〉を回して、シャッター速度や絞り数値などの設定ができます。

電子ダイヤル 〈☉〉 の上下左右を押す

- 操作ボタンを押したり、画面のアイコンにタッチして、機能が設定できる状態で〈☉〉の上下左右を押すと、項目の選択や設定ができます。
- 撮影時に〈☺/☹〉ボタンを押すとドライブモードの選択、〈☒〉ボタンを押すと露出補正、〈*〉ボタンを押すとAEロックができます（撮影モードによって選択できないことがあります）。
- 再生時に〈☐〉消去ボタンを押すと、画像の消去ができます。

〈Q/SET〉 ボタン

〈Q/SET〉 ボタンには、〈Q〉クイック設定と〈SET〉設定機能があります。



〈Q〉クイック設定の機能

- 撮影／再生時に映像が表示されている状態で〈Q〉ボタンを押すと、クイック設定画面が表示できます（p.42）。

〈SET〉設定の機能

- メニューやクイック設定機能などで、設定を確定するときに〈SET〉を押します。

MENU 日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、電源を入れると、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されます。以下の操作手順に従って、エリアから設定してください。住んでいるエリア（地域）を設定しておく、他の地域に旅行したときは、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日時に自動的に変更されます。

撮影画像には、ここで設定した日付/時刻を起点にした撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。



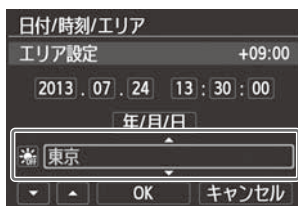
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押します。



2 [☛2] タブの [日付/時刻/エリア] を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 を押して [☛2] タブを選びます。
- 〈▲〉 〈▼〉 を押して [日付/時刻/エリア] を選び、〈SET〉 を押します。



3 エリアを設定する

- 初期状態では [ロンドン] に設定されています。
- 〈◀〉 〈▶〉 を押してエリアの欄を選びます。
- 〈SET〉 を押して、〈☑〉 の状態にします。
- 〈▲〉 〈▼〉 を押してエリアを選び、〈SET〉 を押します（〈◻〉 の状態に戻ります）。

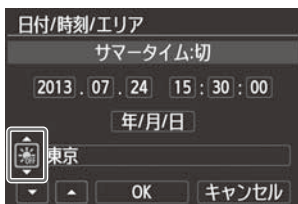


- メニュー機能の設定操作は、46～48ページを参照してください。
- 手順3で画面の右上に表示される時間は、協定世界時との時差です。設定したいエリアがないときは、時差を参考にエリアを選択してください。



4 日付/時刻を設定する

- <◀> <▶> を押して項目を選びます。
- <SET> を押して、<⏏> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して設定し、<SET> を押し
ます (<⏏> の状態に戻ります)。



5 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- <◀> <▶> を押して [☀] を選びます。
- <SET> を押して、<⏏> の状態にします。
- <▲> <▼> を押して [☀] を選び、<SET>
を押します。
- サマータイムを [☀] にすると、手順4で
設定した時刻が、1 時間進みます。[☀] に
するとサマータイムが解除され、1時間戻り
ます。



6 設定を終了する

- <◀> <▶> を押して [OK] を選び、<SET>
を押します。
- ➔ 日付/時刻/エリア、サマータイムが設定さ
れ、メニューに戻ります。

⚠ 以下の条件の場合、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのとき
は再度設定してください。

- ・カメラから電池を取り出して保管したとき
- ・カメラの電池残量がなくなったとき
- ・カメラを氷点下に長時間放置したとき

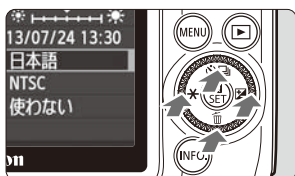
- 設定した日付/時刻のカウントは、手順6で <SET> を押したときに始まります。
- エリア設定を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してくだ
さい。

MENU 表示言語を選ぶ



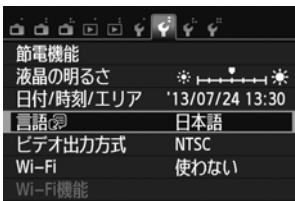
1 メニューを表示する

- 〈MENU〉 ボタンを押します。



2 [F2] タブの [言語] を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して [F2] タブを選びます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して、[言語] を選び、〈SET〉 を押します。



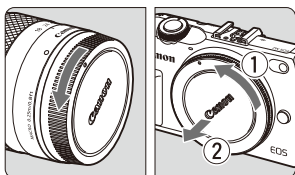
3 言語を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して言語を選び、〈SET〉 を押します。
- 表示言語が切り換わります。

レンズを取り付ける／取り外す

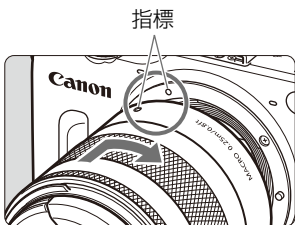
このカメラでは、EF-Mレンズを使用できます。また、マウントアダプターEF-EOS Mを使用すると、EFレンズ、EF-Sレンズも使用できます。

取り付け方



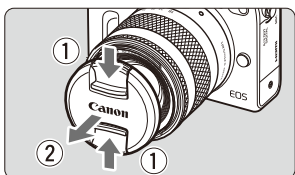
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの白いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

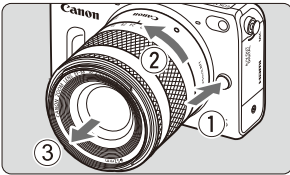


3 レンズキャップを外す

ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

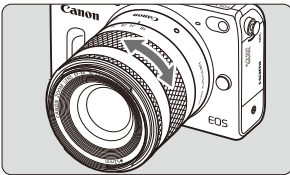
取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、
レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

ズーム操作について



ズーム操作は、レンズのズームリングを手で回します。

ズーム操作は、ピント合わせの前に行います。ピントを合わせたあとでズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。



- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源を〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。
- 本機では、一部の超望遠レンズのフォーカスプリセット機能は使えません。また、パワーズームEF35-80mm F4-5.6 POWER ZOOMを装着してもパワーズームは動作しません。



レンズの焦点距離（撮影画角）について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの焦点距離（有効撮影画角）は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。



例：18-55mmの焦点距離のレンズは35mm判カメラ換算で約29-88mmになります。

レンズの手ブレ補正機能について

手ブレ補正機能を内蔵したレンズを使用すると、撮影するときのわずかなカメラの動き（手の揺れ）を補正して、鮮明な写真を撮ることができます。なお、**〔IS〕** では **〔入〕** に自動設定されています（メニューには表示されません）。

* 手ブレ補正機能が内蔵されたレンズの名称には「IS」が付いています。

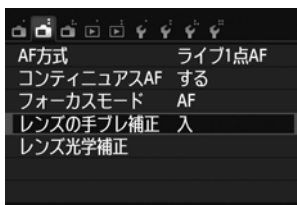
EF-Mレンズの場合

メニューで設定します。初期設定では **〔入〕** に設定されています。



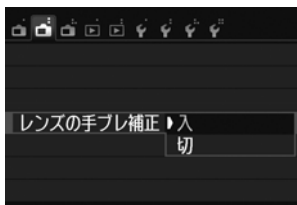
1 メニューを表示する

- **〔MENU〕** ボタンを押します。



2 **〔2〕** タブの **〔レンズの手ブレ補正〕** を選ぶ

- **〔レンズの手ブレ補正〕** は手ブレ補正機能があるEF-Mレンズを取り付けたときに表示されます。
- **〔◀〕〔▶〕** を押して、**〔2〕** タブを選びます。
- **〔▲〕〔▼〕** を押して **〔レンズの手ブレ補正〕** を選び、**〔SET〕** を押します。



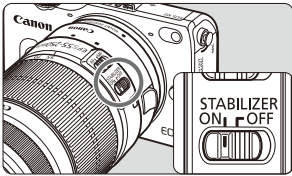
3 **〔入〕** を選ぶ

- **〔▲〕〔▼〕** を押して **〔入〕** を選び、**〔SET〕** を押します。
- **〔MENU〕** ボタンを押します。

ISは、Image Stabilizer（イメージスタビライザー）の略で、手ブレ補正機能のことです。

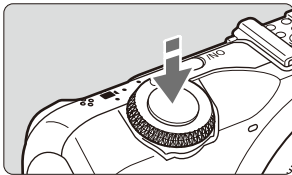
EF-M以外のレンズの場合

レンズにある手ブレ補正スイッチで操作します。



手ブレ補正スイッチを〈ON〉にする

手ブレ補正機能を使って撮影する



1 シャッターボタンを半押しする

→ 手ブレ補正機能が働きます。

2 撮影する

● 液晶モニターに見える像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。



- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- バルブ撮影時は、手ブレ補正を〈OFF〉にしてください。〈ON〉で撮影すると、手ブレ補正機能が誤作動することがあります。
- 大きく揺れ動く乗り物などから撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。

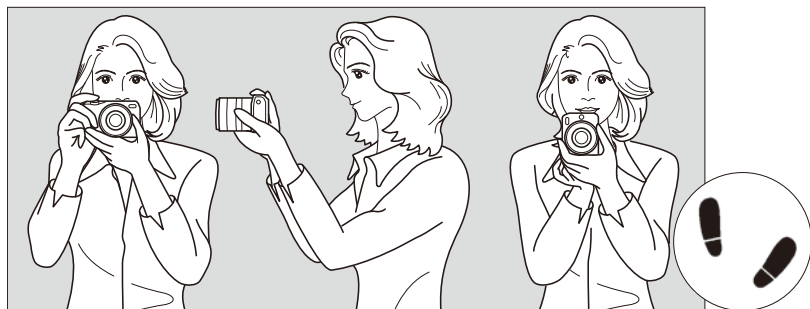


- 手ブレ補正機能は、どのフォーカスモードでも働きます。
- 手ブレ補正を〈OFF〉にすると液晶モニターに「OFF」が表示されます。
- 三脚使用時に手ブレ補正が〈ON〉でも問題なく撮影できますが、電池の消費を防ぐため、手ブレ補正を〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した撮影でも、手ブレ補正効果が得られます。

撮影の基本操作

カメラの構え方

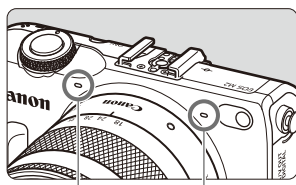
手ブレのない鮮明な画像を撮るために、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。



横位置

縦位置

- ①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
- ②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
- ③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
- ④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
- ⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。

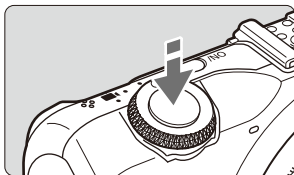


マイク

動画撮影時には、マイクをふさがないようにしてください。

シャッターボタン

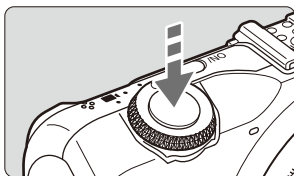
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動でピントと露出を調整します（シャッター速度と絞り数値を調整します）。

露出値（シャッター速度と絞り数値）が、表示されます（8）。



全押し

シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

- ・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
- ・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。



- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬間の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中、画像記録中でも、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります。

クイック設定

液晶モニターに表示されている撮影機能を直接選択して、直感的な操作で機能を設定できます。この操作を「クイック設定」といいます。

クイック設定には、**Q**クイック設定と、INFO.クイック設定の2種類があります。なお、これ以降の説明では、**Q**クイック設定を「クイック設定」と表記します。

Qクイック設定

Qクイック設定では、撮影画面を見ながら機能の設定ができます。



1 **Q**クイック設定画面を表示する (約10)

- **Q** ボタンを押します。



- 画面右上の [**Q**] をタッチして、クイック設定画面を表示することもできます。



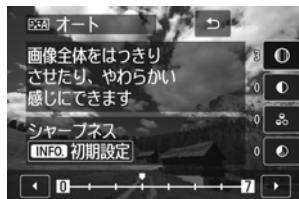
2 機能を選ぶ

- 設定する機能をタッチします。
- 選んだ機能の内容と、機能ガイドが画面に表示されます。



3 機能の内容を設定する

- 画面の下側に表示されるアイコンをタッチして、機能の内容を選びます。
- [**INFO**] をタッチして、さらに詳細設定する機能もあります。



- 撮影画面に戻るときは、[**戻る**] をタッチするか、<SET> を押します。

AF方式 (p.79)



- 設定操作は、電子ダイヤルの < **設定** > や < **戻る** > と <SET> でもできます。
- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。

INFO.クイック設定

INFO.クイック設定では、撮影機能の一覧から選択して設定できます。



1 <INFO.> ボタンを押す

- ボタンを押すたびに表示内容が切り換わります。
- INFO.クイック設定画面を表示します。



簡易表示



詳細表示



INFO.クイック設定

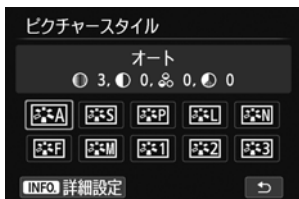


情報表示なし

2 機能を選ぶ

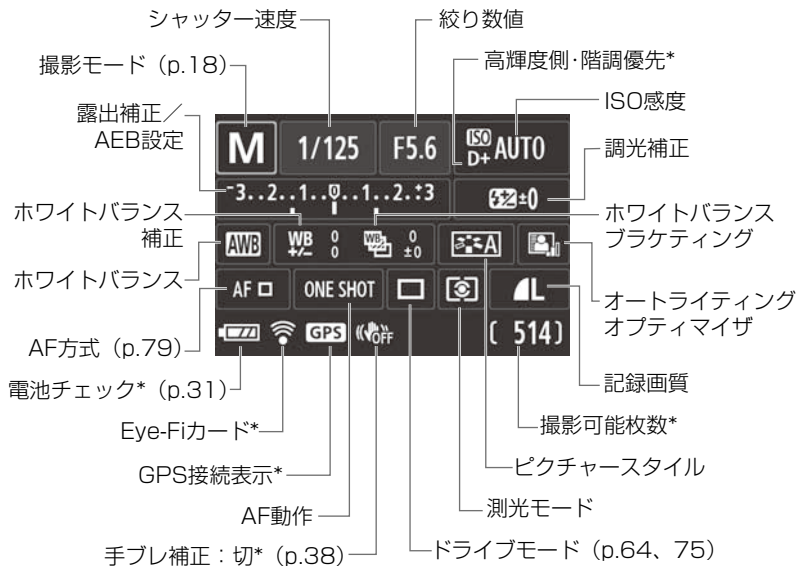
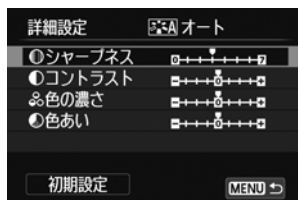
- 設定する機能をタッチします。
→ 機能ガイドが画面に表示されます。
- もう一度タッチすると、内容の設定画面が表示されます。





3 機能の内容を設定する

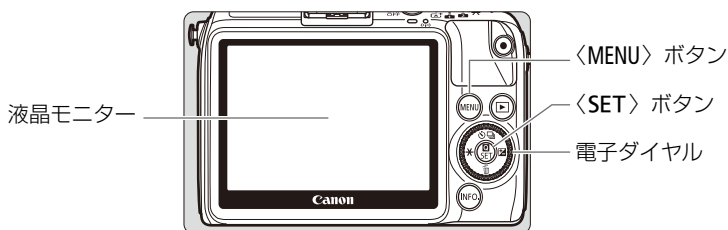
- 表示される画面で機能の内容をタッチして設定します。
- [**INFO** 詳細設定] をタッチして、さらに詳細設定する機能もあります。



- 設定操作は、電子ダイヤルの <◀▶> や <⊙> と <SET> でもできます。
- *印の機能は、INFO、クイック画面で設定できません。
- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。

MENU メニュー機能の操作と設定

このカメラでは、記録画質や日付/時刻など、さまざまな設定をメニューで行います。メニュー機能の操作は、〈MENU〉ボタン、電子ダイヤル、〈SET〉ボタンを使って行います。

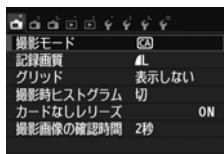


メニュー画面

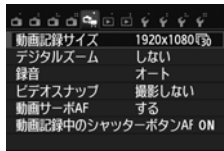
撮影モードによって、表示されるタブやメニュー項目は異なります。

シーンインテリジェントオート

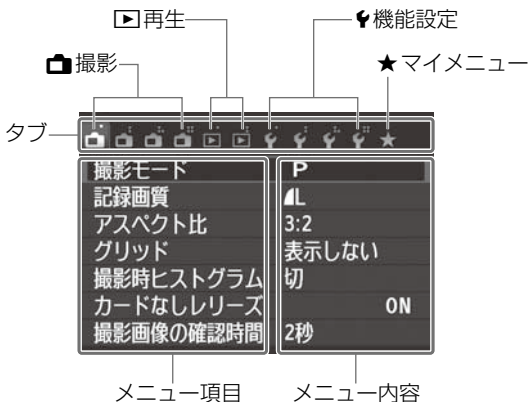
かんたん撮影モード



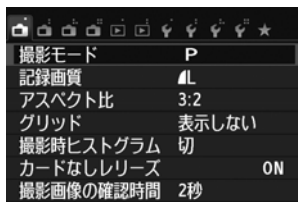
動画撮影モード



応用撮影モード



メニュー機能の設定操作



1 メニューを表示する

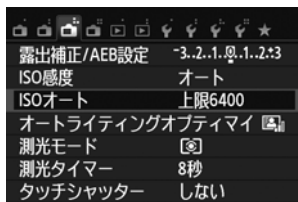
- 〈MENU〉ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- 電子ダイヤルの〈◀〉〈▶〉を押してタブ（系統）を選びます。
- 例えば、本文中の [📷3] タブは、📷（撮影）タブの左から3番目 [📷⋮] を選んでいる画面のことです。

3 項目を選ぶ

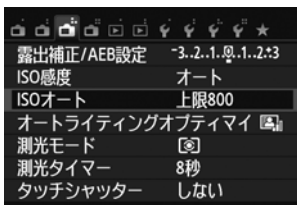
- 電子ダイヤルの〈▲〉〈▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。



4 内容を選ぶ

- 電子ダイヤルの〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉で内容を選びます（〈▲〉〈▼〉で選ぶ内容と、〈◀〉〈▶〉で選ぶ内容があります）。
- 現在設定している内容は青色になります。





5 内容を設定する

- 〈SET〉 を押すと設定されます。

6 設定を終了する

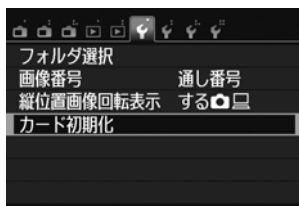
- 〈MENU〉 ボタンを押すと表示が消え、撮影機能の設定画面に戻ります。

- メニューや撮影した画像が表示されている状態でも、シャッターボタンを押すと、すぐに撮影できます。
- 手順2では 〈○〉 を回してタブを選ぶこともできます。
- 手順2～5は、液晶モニターをタッチして操作することもできます (p.50)。
- これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉 ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
- 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉 ボタンを押します。

MENU カードを初期化する

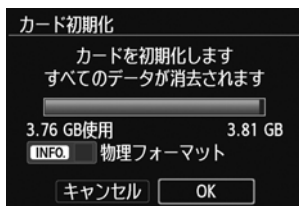
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）することをおすすめします。

- 🔊 カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。



1 [カード初期化] を選ぶ

- [🔊1] タブの [カード初期化] を選び、〈SET〉を押します。



2 初期化する

- [OK] を選び 〈SET〉 を押します。
→ 初期化が終了すると、メニューに戻ります。



- 物理フォーマットを行うときは、〈INFO.〉ボタンを押して、[物理フォーマット] の横に [✓] が付いた状態で [OK] を選びます。

画面にタッチして操作する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて操作できます。

タッチ

画面例（クイック設定）



- 液晶モニターに指を触れて、指を離します。
- 液晶モニターに表示されるメニューやアイコンなどを選択するときに使います。
- タッチ操作ができるアイコンは、枠で表示されます（メニュー画面を除く）。
- [↶] をタッチすると、元の画面に戻ります。

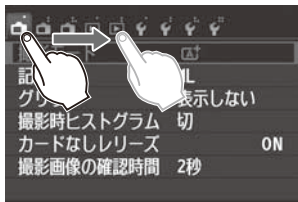


タッチでできる操作

- 〈MENU〉 ボタンを押したあとのメニュー機能の設定
- クイック設定
- 〈☺/🔍〉 ボタンを押したあとの機能設定
- タッチシャッター
- 再生の操作

ドラッグ

画面例（メニュー画面）



- 液晶モニターに、指を触れたまま動かします。

画面例（目盛り表示）



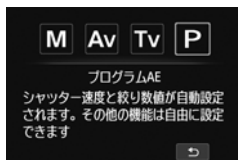
ドラッグでできる操作

- 〈MENU〉 ボタンを押したあとのメニュー画面のタブや項目の選択
- 目盛り表示の設定
- クイック設定
- 再生の操作

機能ガイドについて

撮影モードを変更したときや、静止画撮影／動画撮影／再生時のクイック設定時に、撮影モードや機能・項目の簡単な説明（機能ガイド）が画面に表示されます。クイック設定のときは、機能・項目を選ぶと説明が表示されます。表示中に、操作を続けると説明は消えます。

● 撮影モード（例）



● クイック設定（例）



Q クイック設定

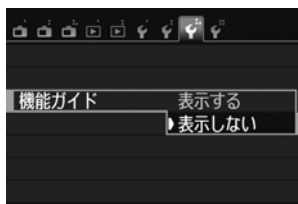


INFO.クイック設定



再生

MENU 機能ガイド表示を消す



【機能ガイド】を選ぶ

- [F3] タブの【機能ガイド】を選び、〈SET〉を押します。
- 【表示しない】を選び 〈SET〉を押します。

2

かんたん撮影

この章では、シーンインテリジェントオートとかんたん撮影モードを使って撮影する方法を説明しています。

〈**A+**〉では、シャッターボタンを押すだけで写真が撮影できます。

〈**1**〉では、さらに背景をぼかしたり (p.63)、雰囲気を変えたり、明かりや状況に合わせてたりすることで、自分だけの写真を楽しむことができます。

シーンインテリジェントオート



かんたん撮影モード



〈**1**〉に設定されている撮影モードの確認方法

- かんたん撮影モードには、10種類の撮影モードがあります。メニューの [**1** : 撮影モード] を選択すると、いま設定されている撮影モードを確認できます (p.47)。

スピードライト90EXの発光

- かんたん撮影モードでスピードライト90EXを使用すると、撮影モードによっては自動発光します (p.76)。

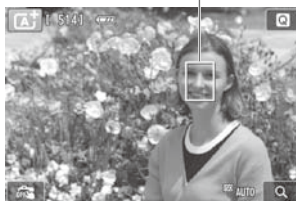
[A+] 全自動で撮る (シーンインテリジェントオート)

〈A+〉はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。



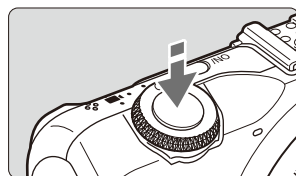
1 モードダイヤルを〈A+〉にする

AFフレーム



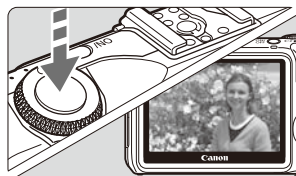
2 AFフレームを動かす

- 画面をタッチして、AFフレームをピントを合わせたい位置に動かします（画面の一番端までは動きません）。
- 〈▼ 画〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に移動します。



3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせます。
- ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。



4 撮影する

- シャッターボタンを全押しします。
- 液晶モニターに撮影した画像が 2 秒間表示されます。



- 〈AF+〉モードで、自然や屋外シーン、または夕景シーンを撮ると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、応用撮影モードで、〈E:SA〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください。
- 映像の視野率は、約100% (記録画質JPEG **L**時) です。
- 連続撮影時は、1枚目の露出で2枚目以降を撮影します。
- ステレオAVケーブル AVC-DC400ST (別売)、またはHDMIケーブル HTC-100 (別売) を使用すると、撮影中の映像をテレビに表示できます。

? こんなときは

● AFフレームがオレンジ色になり、ピントが合わない

明暗差 (コントラスト) のある部分にAFフレームを合わせ直してシャッターボタンを半押ししてください。また、近づきすぎているとピントが合わないことがあります。離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが緑色になる

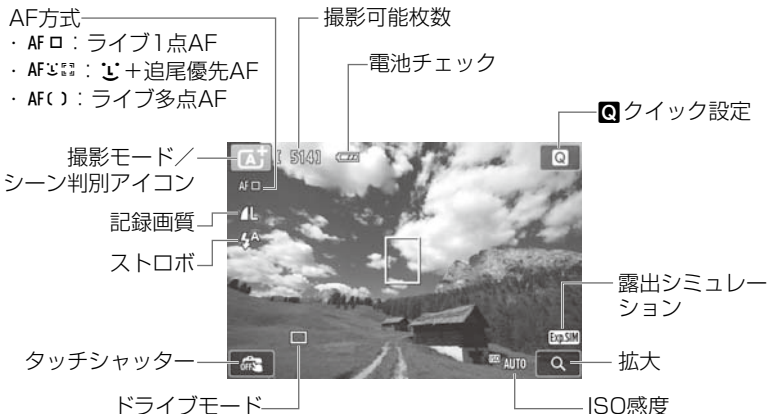
緑色になったすべてのフレームの位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも緑色になっているときは、そのまま撮影してください。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

EFレンズ、EF-Sレンズ使用時は、レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉 (手動ピント合わせ) になっていると手動ピント合わせになります。フォーカスモードスイッチを〈AF〉 (自動ピント合わせ) にしてください。

情報表示について

- 〈INFO〉 ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。





- 〈Exp.SIM〉 が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉 が点滅しているときは、低輝度、高輝度条件下で映像が適切な明るさで表示されていないことを示しています。ただし、撮影を行うと、露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- [1 : 撮影時ヒストグラム] を [切] 以外に設定しているときは、〈INFO〉 ボタンを押すと、ヒストグラムを表示できます。なお、シャッターボタン全押し中は、ヒストグラムは表示されません。

□A+ 全自動を使いこなす (シーンインテリジェントオート)

構図を変えて撮影する



シーンによっては、被写体を中央ではなく、画面の右や左に配置して、背景も入れることで、バランスもとれて、奥行きのある写真になります。

止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントをその被写体との距離に固定(ロック) します。そのまま、右や左にカメラを動かして、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。かんたん撮影モードでもフォーカスロック撮影ができます (〈〉〈〉を除く)。

シーン判別のアイコン一覧

〈AF+〉モードで撮影するときは、カメラが判別したシーンアイコンが画面左上（撮影モードの位置）に表示されます。

背景	被写体		人物以外の被写体			背景色
	人物*1	動いているとき	自然や屋外シーン	動いているとき	近いとき*2	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*3			*3		オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時	 *4*5	*3	 *4*5	*3		

*1：AF方式を〔AF+追従優先AF〕に設定しているときのみ表示されます。それ以外のAF方式を設定しているときは、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されず。

*2：距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*3：判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。

*4：撮影シーンが暗いときや、夜景を撮影するときに、三脚などでカメラを固定すると表示されます。

*5：下記のレンズ使用時に、表示されます。

- ・ EF-S18-55mm F3.5-5.6 IS II
- ・ EF-S55-250mm F4-5.6 IS II
- ・ EF300mm F2.8L IS II USM
- ・ EF400mm F2.8L IS II USM
- ・ 2012年以降に発売されたISレンズ

*4+*5：*4+*5の条件がすべて揃ったときは、シャッター速度が遅くなります。

* シーンによっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

撮影モードを選ぶ (かんたん撮影モード)

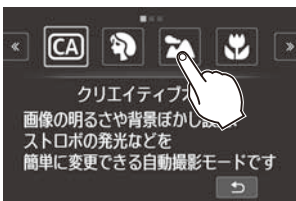


1 モードダイヤルを〈M〉にする



2 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。
- この画面が表示されていないときは、〈INFO.〉ボタンを何度か押します。



3 画面をタッチしてモードを選ぶ

設定できる撮影モード

かんたん撮影モードの選択画面は、全部で3ページあります。



画面両端の [◀] [▶] をタッチすると、画面が左右に切り換わります。

- 撮影画面に戻るときは、[↶] をタッチするか、〈SET〉を押します。

撮影モード		参照頁	撮影モード		参照頁
	クリエイティブオート	p.60		キッズ	p.69
	ポートレート	p.65		料理	p.70
	風景	p.66		夜景ポートレート	p.71
	クローズアップ	p.67		手持ち夜景	p.72
	スポーツ	p.68		HDR逆光補正	p.73

CA クリエイティブオートで撮る

〈CA〉モードでは、①霧田気を選んで撮影、②エフェクトショット、③ストロボの発光、④背景ぼかし設定、⑤ドライブ/セルフタイマーを設定して撮影することができます。なお、初期状態の設定は、〈A+〉モードと同じです。

* CAは、Creative Auto (クリエイティブオート) の略です。

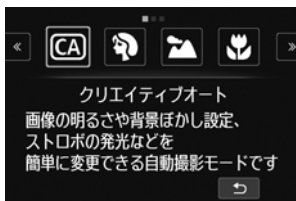


1 モードダイヤルを〈A+〉にする



2 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。



3 画面をタッチして〔CA〕を選ぶ



4 クイック設定画面を表示する

- 〈Q〉ボタンを押して表示します。



5 機能を選ぶ

- エフェクトショット、霧田気を選んで撮影、ストロボ発光はクイック設定で設定できません。
- 背景ぼかし設定は、撮影画面でアイコンをタッチして設定できます。
- ドライブ/セルフタイマーは 〈S/ST〉ボタンを押して設定できます。



6 内容をタッチして選ぶ

- 選んだ機能の内容と、機能ガイド (p.52) が画面に表示されます。
- 機能の設定方法と内容については、61～64ページを参照してください。
- 機能を選び、[↵] をタッチします。

7 撮影する

- シャッターボタンを押します。

撮影モードを変えたり、電源を〈OFF〉にすると、この画面で設定した内容が初期設定に戻ります。ただし、AF方式、記録画質、クリエイティブフィルター、およびセルフタイマーの設定はそのまま保持されます。

クイック設定から設定する



① 霧団気を選んで撮影

- ・どんな霧団気に写真を仕上げたいかを選んで撮影できます。

② エフェクトショット

- ・クリエイティブフィルターやピクチャースタイル、雰囲気を選んで撮影から撮影効果を選んで、撮影することができます。
- ・[📷 : する] を選び、[👉] をタッチします。
- ・[👉] [👈] をタッチして撮影効果を選びます。
- ・1回の撮影で、撮影効果なし/効果ありの2枚が撮影されます。撮影直後、撮影効果なし（左）/効果あり（右）の両方の画像が同時に表示されます。
* Eye-Fiカード使用時に、転送済みの画像を削除する設定にしているときは、撮影直後の再生時に、撮影効果なしの画像は表示されません。

気に入った撮影効果を登録する

- ・撮影直後または再生時に、効果ありの画像には、[📷] アイコンが表示されます。アイコンをタッチすると、その撮影効果の内容を確認することができます。
- ・撮影効果は [★ : お気に入り効果] に2つまで登録することができます。
- ・登録した [★ : お気に入り効果] を選ぶと、その撮影効果で撮影することができます。[★ : お気に入り効果] は、上書きすることができます。

③ 90EXを取り付けたときのストロボの発光

- [📷] ストロボ自動発光 : 必要に応じて自動的に発光します。
- [📷] ストロボ発光 : 常時ストロボが発光します。
- [📷] ストロボ発光禁止 : ストロボは発光しません。
- * 90EX以外のストロボを取り付けたときは、常時発光になります。

📷 エフェクトショットと雰囲気をを選んで撮影、またはエフェクトショットと背景ぼかし設定を同時に設定することはできません。

画面をタッチして設定する

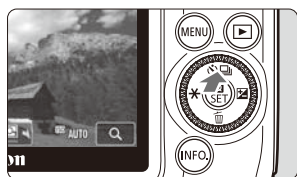


④ 背景ぼかし設定

- ・撮影画面で背景ぼかし設定をタッチして設定します。
- ・[OFF] は、明るさに応じて背景のボケ具合が変わります。
- ・[OFF] 以外に設定すると、画面に [ぼかしシミュレーション中] と表示され、明るさに関係なく背景のボケ具合が調整できます。
- ・画面をタッチして設定します。右に動かすほど被写体の背景がくっきりし、左に動かすほど、被写体の背景がぼけた写真になります。なお、レンズの明るさ (F値) によっては、選べない位置があります。
- ・背景をぼかしたいときは、65 ページの『人物を写す』を参考にして撮影します。
- ・使用レンズや撮影条件によっては、ぼけた写真にならないことがあります。
- ・ストロボとの併用はできません。
- ・ストロボ使用時は、ストロボの充電が完了すると、背景ぼかし設定が [OFF] になります。

 [ぼかしシミュレーション中] の表示中に [Exp.SIM] が点滅するときは、実際に撮影される画像よりもノイズが多かったり、暗く見えることがあります。

〈/ 〉を押して設定する



⑤ ドライブ/セルフタイマー

〈/ 〉を押して設定します。

[□] 1枚撮影

1枚だけ撮影します。

[] 連続撮影

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。1秒間に最高約4.6枚を連続して撮影できます。

[] セルフタイマー：10秒/リモコン

シャッターボタンを押すと、10秒後に撮影します。リモコン撮影も可能です。


[] セルフタイマー：2秒

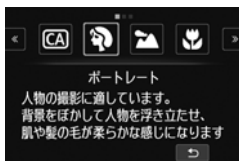
シャッターボタンを押すと、2秒後に撮影します。

[] セルフタイマー：連続撮影

[▲] / [▼] をタッチして撮影する枚数 (2~10) を設定します。シャッターボタンを押すと、10秒後に設定した枚数を連続撮影します。



人物を写す（ポートレート）

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときに、（ポートレート）を使用します。肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。




撮影のポイント

- **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**
人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。
- **望遠レンズを使用する**
ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。
- **顔にピントを合わせる**
ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが緑色になったことを確認して撮影します。なお、顔をアップで写すときは、目にピントを合わせると効果的です。

 初期設定では、（連続撮影）が設定されています。シャッターボタンを押し続けると、連続撮影（1秒間に最高約4.6枚）して表情やポーズの変化を写すことができます。

風景を写す（風景）

広がりのある風景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときに、〈〉（風景）を使用します。空や緑が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。



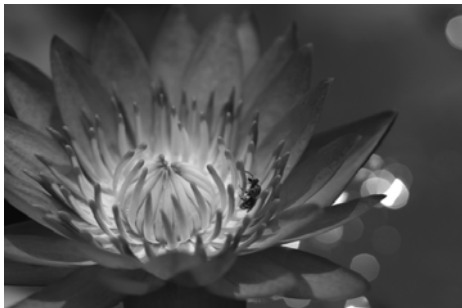
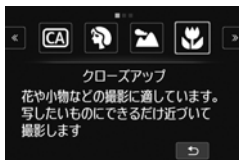
撮影のポイント

- **ズームレンズは広角側にする**
ズームレンズのときは、レンズを広角側にする、近くから遠くまでピントの合った写真を撮影できます。また、風景の広がりも表現できます。
- **夜景を撮影するときは**
手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

 〈〉ではスピードライト90EXを取り付けていても発光しません。

🌸 花や小物を大きく写す（クローズアップ）

花や小物などに近づいて大きく写したいときに、**🌸**（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものをより大きく写すことができます。

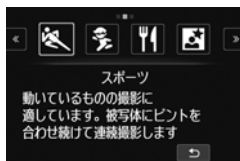


💡 撮影のポイント

- すっきりした背景を選ぶ
背景に花や葉などがなく、すっきりしているほど、花や小物が浮き立ちます。
- 写したいものに、できるだけ近づく
最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、**MACRO 0.25/0.8ft** というように書かれているものもあります（この例では、25センチまで近づけます）。なお、最短撮影距離は、カメラの上面の **📷**（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎるとピントが合いません。
- ズームレンズは望遠側にする
ズームレンズのときは、望遠側にすると大きく撮影できます。

🏃 動きのあるものを写す（スポーツ）

動いているものにピントの合った写真を撮りたいときに、🏃（スポーツ）を使用します。



💡 撮影のポイント

● 連続撮影する

ピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。

ピントを合わせている間、電子音が鳴り続け、ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、連続撮影して動きの変化を写すことができます。

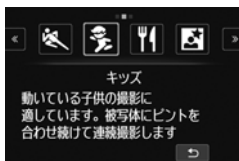
EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMなど、レンズの名称に「STM」がついているレンズ使用時は、ピントを合わせ続けながら連続撮影ができます。それ以外のレンズでは、2コマ目以降はピントが固定された連続撮影になります。

- EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMなど、レンズの名称に「STM」がついているレンズ使用時は、ピントを合わせ続けながら連続撮影するため、連続撮影速度が遅くなります。
- [AF方式]を[ライブ1点AF]にすることをおすすめします。
- 撮影条件によっては、シャッターが切れるまで時間がかかることがあります。
- 手ブレしやすい暗い場所では、左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようにしっかり構えて撮影してください。
- [ライブ多点AF] 設定時は、シャッターボタン半押しでAFフレームが固定されます。
- [顔] + 追尾優先AF 設定時は、連続撮影中、AFフレームが固定されます。

📷 🏃 ではスピードライト90EXを取り付けていても発光しません。

👶 子供を写す（キッズ）

動いている子供にピントを合わせ続けて撮影したいときは、**👶**（キッズ）を使用します。肌色が健康的な写真になります。



💡 撮影のポイント

● 連続撮影する

ピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。

ピントを合わせている間、電子音が鳴り続け、ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、連続撮影して動きの変化を写すことができます。

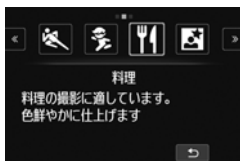
EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMなど、レンズの名称に「STM」がついているレンズ使用時は、ピントを合わせ続けながら連続撮影ができます。それ以外のレンズでは、2コマ目以降はピントが固定された連続撮影になります。



- EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMなど、レンズの名称に「STM」がついているレンズ使用時は、ピントを合わせ続けながら連続撮影するため、連続撮影速度が遅くなります。
- [AF方式]を[ライブ1点AF]にすることをおすすめします。
- 撮影条件によっては、シャッターが切れるまで時間がかかることがあります。
- [ライブ多点AF] 設定時は、シャッターボタン半押しでAFフレームが固定されます。
- [👤 (顔) + 追尾優先AF] 設定時は、連続撮影中、AFフレームが固定されます。

🍴 料理を写す (料理)

料理を撮影するときに、🍴 (料理) を使用します。明るく、鮮やかな色あいの写真になります。



💡 撮影のポイント

● 色あいを変える



「色あい」を変えることができます。一般的に、料理の写真は少し赤みがある方が鮮やかに見えます。料理の赤みを強めにしたときは「暖色」側に、赤みが強すぎるときは「寒色」側に設定を変更して撮影してください。

● アップで撮影する

ズームレンズのときは、望遠側にして料理を大きく切り取ると効果的です。

● 斜めうしろから光をあてる

料理の斜めうしろから光をあけると、立体感のある写真になります。

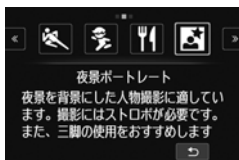
● なるべくストロボを使わないで撮影する

料理にストロボ光が直接あたると、お皿や料理に反射光が写り込んだり、不自然な影ができてしまったりします。

- 料理を鮮やかな色あいに撮影するためのモードなので、人物は適切な色あいにならないことがあります。
- ストロボ撮影時は、「色あい」の設定が標準設定に切り換わります。

夜景と人物を写す（三脚を使う）

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときに、**夜景ポートレート**（夜景ポートレート）を使用します。撮影にはストロボが必要です。また、三脚の使用をおすすめします。



撮影のポイント

● 広角レンズと三脚を使用する

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、三脚を使用して撮影します。

● 画像の明るさを確認する

スピードライト90EXの電源を〈ON〉にしていると、暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。撮影した画像はその場で再生し、画像の明るさを確認することをおすすめします。人物が暗いときは、近づいて撮影してください。

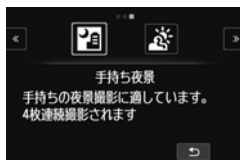
● 注意事項は74ページを参照してください。



- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写される人に声をかけてください。
- セルフタイマー併用時に、ストロボが発光するときは、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

📷 夜景を写す（手持ち撮影）

夜景を撮影するときは三脚を使用した方がきれいに撮影できますが、<📷>（手持ち夜景）を使用すると、カメラを手に持ったまま夜景を撮影できます。1回の撮影で4枚連続撮影し、手ブレを抑えた画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、4枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

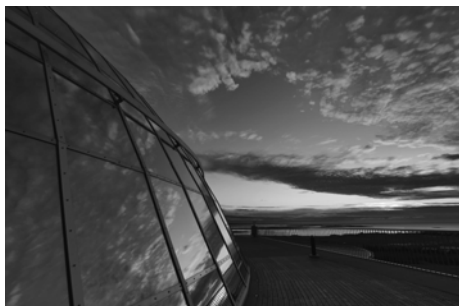
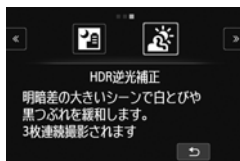
● 人物も一緒に撮るときはストロボ発光

ストロボを使うと、人物と背景の夜景も一緒に撮影できます。人物もきれいに写るように、初めの1枚がストロボ撮影になります。4枚撮影し終わるまで人物が動かないように注意してください。

🗨️ 注意事項は74ページを参照してください。

🌑 逆光シーンを写す (HDR逆光補正)

明るいところと暗いところが混在する逆光シーンなどを写すときは、**🌑** (HDR逆光補正) を使用します。1回の撮影で明るさの異なる3枚の画像を連続撮影し、特に逆光による黒つぶれを抑えた広い階調の画像が1枚記録されます。



💡 撮影のポイント

● カメラをしっかり構える

撮影中、カメラが動かないようにしっかり構えます。この撮影モードは、3枚の画像の位置を合わせながら合成して、1枚の画像を作成しますが、手ブレなどにより、画像のズレ量が大きいと、画像の位置合わせが正常に行われなかったことがあります。

- ストロボ撮影はできません。なお、暗い場所では、AF補助光が光ることがあります。
- 注意事項は74ページを参照してください。

📄 HDRは、High Dynamic Range (ハイダイナミックレンジ) の略です。



〈☒〉夜景ポートレートと〈☒〉手持ち夜景の注意事項

- 夜景など点状の光源では、ピントが合いにくいことがあります。このようなときは、レンズのフォーカスモードを [MF] にして手動でピントを合わせてください。

〈☒〉手持ち夜景と〈☒〉HDR逆光補正の注意事項

- 他の撮影モードより、撮影される範囲が狭くなります。
- **RAW** + **▲L**、**RAW** は選択できません。**RAW** + **▲L** または **RAW** が設定されているときは、**▲L** になります。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ったり、被写体の周辺が暗めに写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なとき、また手ブレなどにより画像のズレ量が多いときは、画像の位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 通常の撮影よりも、カードに画像が記録されるまでの時間が長くなります。画像処理中は「BUSY」が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- 撮影時のクリエイティブフィルターは使用できません。
- ファイナルイメージシミュレーションはできません。
- 撮影モードが〈☒〉〈☒〉に設定されているときは、ダイレクトプリントできません。

〈☒〉手持ち夜景の注意事項

- ストロボ撮影時に、被写体が近いとかなり明るい写真（露出オーバー）になることがあります。
- ストロボ撮影時に、明かりが少ない夜景を撮影するときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。
- ストロボ撮影時に、人物と背景が近く、背景にもストロボ光が当たっているときは、画像の位置合わせが正常に行われず、ブレた写真になることがあります。また、不自然な影ができたり、色あいが適切にならないことがあります。
- ストロボの照射角について
 - ・ 照射角の自動設定に対応したストロボのときは、レンズのズーム位置に関係なく、ストロボのズーム位置がワイド（広角）端に固定されます。
 - ・ 照射角を手動設定するストロボのときは、発光部をワイド（広角）側にして撮影してください。

〈☒〉HDR逆光補正の注意事項

- グラデーションが滑らかに再現されなかったり、ムラやノイズが発生することがあります。
- 極端に強い逆光シーンや、明暗差が大きいシーンでは、補正効果が十分に得られないことがあります。
- 順光シーンなど、被写体がもともと明るいシーンでは、HDR効果で不自然な画像になることがあります。

📷 セルフタイマー撮影



1 <📷/📷> ボタンを押す

- INFO、クイック設定でも設定できます。



2 セルフタイマーをタッチする

📷: 10秒後に撮影

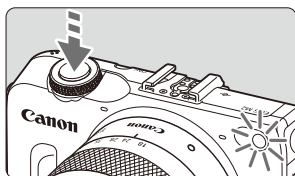
リモコン撮影も可能

📷₂: 2秒後に撮影

📷_c: 10秒後、設定した枚数を連続撮影

[▲] / [▼] をタッチして、撮影する枚数 (2~10) を設定します。

- [↵] をタッチすると、元の画面に戻ります。



3 撮影する

- ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。
- ➔ セルフタイマーランプと電子音、液晶モニターに表示される秒数の減算表示で作動を確認できます。
- ➔ 撮影 2 秒前にセルフタイマーランプが点灯し、電子音が速く鳴ります。

セルフタイマー撮影を中止するときは

<📷/📷> ボタンを押すか、画面をタッチします。

セルフタイマーの設定を解除するときは、<📷/📷> ボタンを押して、[□] または [📷] をタッチします。

クイック設定で設定できる機能



〈**A+**〉とかんたん撮影モードでは、**Q** クイック設定 (p.42) やINFO、クイック設定 (p.44) で以下の機能が設定できます。

〈**A+**〉とかんたん撮影モードで設定できる機能

● : 初期設定 ○ : 選択可能 □ : 選択不可

項目		〈 A+ 〉	かんたん撮影モード									
			CA									
AF方式 (p.79) Q	ライブ1点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	追尾優先AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ライブ多点AF	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
記録画質 Q		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ドライブモード	□ : 1枚撮影	●	●	○	●	●	○	○	●	●	●	●
	: 連続撮影	○	○	●	○	○	●	●	○	○	○	○
セルフタイマー (p.75)	(10秒)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	₂ (2秒)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	_c (連続撮影)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
スピードライト 90EXの発光 Q	: 自動発光	●	●	●		●		●		●		
	: 常時発光	○	○	○		○		○	●		●	
	: 発光禁止	○	○	○	●	○	●	○				●
雰囲気を選んで撮影 Q			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
明かりや状況にあわせて撮影 Q			○	○	○	○	○					
背景ぼかし設定 (p.63)			○									
色あい Q									○			
エフェクトショット (p.62) Q			○									
クリエイティブフィルター Q			○	○	○	○	○	○	○	○		

* **Q** のついている項目は、**Q** クイック設定画面で設定できます。

撮影モードを変えたり、電源を〈OFF〉にすると、初期設定に戻ります (AF方式、記録画質、セルフタイマーの設定を除く)。クリエイティブフィルターは、電源を〈OFF〉にしても解除されません。なお、撮影モードを〈**A+**〉〈

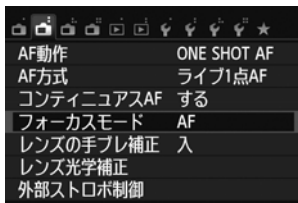
3

オートフォーカス

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。

MENU ピントの合わせ方を選ぶ

EF-Mレンズの場合



1 [フォーカスモード] を選ぶ

- [2] タブの [フォーカスモード] を選びます。
- [フォーカスモード] はEF-Mレンズを取り付けたときに表示されます。EFレンズ、EF-Sレンズを取り付けたときは表示されません。
- < > のときは表示されません (AFに自動設定されます)。



2 項目を選ぶ

- **AF : AF (自動)**
Auto Focus (自動ピント合わせ) の略です。
- **MF : MF (手動)**
Manual Focus (手動ピント合わせ) の略です。
- **AF+MF : AF後に手動でピント合わせ**
AF後の最終ピント合わせが手動でできます。AF後、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回します。

[AF動作]で[サーボAF]を選んでいる場合や、< > < > では、サーボAFを優先するため、[AF+MF] を選んでも手動ピント合わせはできません。

AFでピントを合わせる（AF方式）

AF方式を選ぶ

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AF方式には、[ライブ1点AF]、[L（顔）+追尾優先AF]（p.80）、[ライブ多点AF]（p.82）があります。

なお、厳密にピントを合わせたいときは、レンズのフォーカスモードを [MF] にしたあと、映像を拡大して手動ピント合わせを行ってください。



AF方式を選ぶ

- クイック設定(p.42)でAF方式を選びます。
- 画面の下側でAF方式を選び、[↵] をタッチして設定します。
- [📷2] タブの [AF方式] で選ぶこともできます。

ライブ1点AF：AF 口

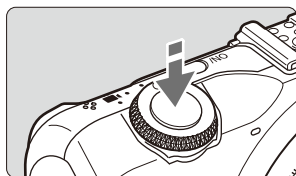
1点のAFフレームでピント合わせを行いますので、狙った被写体にピントを合わせたいときに効果的です。



AFフレーム

1 AFフレームを動かす

- 画面をタッチして、AFフレームをピントを合わせたい位置に動かします（画面の一番端までは動きません）。
- <▼ 画> ボタンを押すと、AF フレームが画面中央に移動します。
- 動画撮影時、[動画サーボAF] が [する] に設定されているときは、AFフレームが大きく表示されます。



2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります ([AF動作] を [サーボAF] に設定しているときは、青色に変わります。電子音は鳴りません)。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします (p.54)。

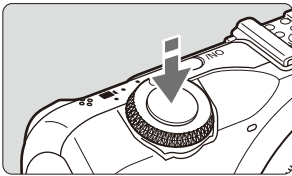
顔 (顔) + 追尾優先AF : AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム () も動いて顔を追尾します。



1 AFフレームを確認する

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム () が顔の部分に表示されます。
- 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。顔以外のときは () が表示されます。
- 顔が検知できないときや、画面にタッチして顔または被写体を選択しなかったときは、[ライブ多点AF] の自動選択 (p.82) に切り換わります。



2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピントを合わせます。
- ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります（[AF動作]を[サーボAF]に設定しているときは、青色に変わります。電子音は鳴りません）。
- ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。



3 撮影する

- シャッターボタンを全押しします (p.54)。



- ピントが大きく外れていると、顔を検知できません。[コンティニュアス AF]を[する]に設定すると、ピントが大きく外れないようにできます。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい/大きい」、「顔が明るすぎる/暗すぎる」、「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う (:) が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。
- 撮影後のアクセスランプ点灯中に、シャッターボタンを押し直して撮影すると、一時的に[ライブ多点AF]になることがあります（顔を検知しません）。



- <▼> ボタンを押すと、画面中央に AF フレーム (:) が表示され、ドラッグすることで AF フレームを移動できます。再度、<▼> ボタンを押すと、検知した被写体に AF フレームが移動します。
- 画面の端のほうで検知された顔は AF できないため、<:)> が灰色で表示されます。その状態でシャッターボタンを半押しすると、[ライブ多点AF]の自動選択でピント合わせが行われます。

ライブ多点AF：AF()

最大31点の広いエリアでピント合わせができます (自動選択)。また、そのエリアを9つのゾーンに分けてピント合わせ (ゾーン選択) することもできます。



エリア枠



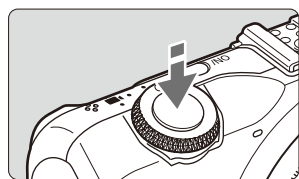
ゾーン枠

1 AFフレームのゾーンを選ぶ 2

- 自動選択時に画面をタッチすると、ゾーン選択に切り換わります。なお、〈AF+〉とかんたん撮影モードでは、自動選択に自動設定されます。
- 画面をタッチして、ゾーンを選択します。〈▼ 1/2〉ボタンを押すと、中央のゾーンに戻ります。
- ゾーン選択時に、画面の [1/2] をタッチすると、自動選択に切り換わります。

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➔ ピントが合うと AF フレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります ([AF動作] を [サーボAF] に設定しているときは、青色に変わります。電子音は鳴りません)。
- ➔ ピントが合わないときは、エリア枠またはゾーン枠がオレンジ色に変わります。





3 撮影する



- シャッターボタンを全押しします (p.54)。



- 自動選択時に、意図したところにピントが合わないときは、ゾーン選択または[ライブ1点AF]に変更してピントを合わせなおしてください。
- アスペクト比の設定によって、AFフレーム数は異なります。[3:2]のときは31点、[1:1] [4:3]のときは25点、[16:9]のときは21点になります。また、[16:9]のときはゾーンが3つになります。
- 動画時は、AFフレームが21点([640×480]設定時は25点)、ゾーンが3つ([640×480]設定時は9つ)になります。

ライブ1点AF、（顔）+追尾優先AF、ライブ多点AFについて

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、再度ピントを合わせます。
- AF中とAF後で、映像の明るさが変わることがあります。
- AF中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。その場合は、撮影する光源下で電源を入れなおして、AFを行ってください。
- **ライブ1点AF** 設定時は、画面の[Q]をタッチすると、AFフレームの部分が拡大表示されます。シャッターボタンを半押しすると、拡大表示のままピントを合わせます（**AF動作**で**サーボAF**を選んでいるときは、通常表示に戻ってピントを合わせます）。カメラを三脚に取り付けて厳密にピント合わせしたいときに効果的です。なお、拡大表示でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。また、AFの速度は、通常表示と拡大表示で異なることがあります。
[ライブ多点AF]でも拡大表示できますが、シャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピントを合わせます。
- **ライブ多点AF** 設定時は、シャッターボタン半押しでAFフレームが固定されます。
- **ライブ1点AF** [ライブ多点AF] 設定時に、通常表示でAFを行ったあと、拡大表示すると正確にピントが合っていないことがあります。
- **（顔）+追尾優先AF** 設定時は、拡大表示できません。また、連続撮影中は、AFフレームが固定されます。
- **（顔）+追尾優先AF** と **ライブ多点AF** 設定時は、連続撮影中にAFフレームが固定されます。

[AF動作]で**サーボAF**を選んでいるときの連続撮影について

- EF-M18-55mm F3.5-5.6 IS STMなど、レンズの名称に「STM」がついているレンズ使用時は、サーボAF時にピントを合わせ続けながら連続撮影ができます（連続撮影速度は遅くなります）。それ以外のレンズでは、2コマ目以降はピントが固定された連続撮影になります。



- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（AFフレームまたはゾーン）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 拡大表示しているときは、拡大するほど手ブレにより、AFでのピントが合いにくくなります。カメラを三脚に取り付けて撮影することをおすすめします。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 極端に明るい、または暗い被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED電球などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 光を強く反射している被写体
- 近くと遠くにある被写体が、AF フレームの中に入っている場合（おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピンボケした状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合



- 上記の撮影条件でピントが合わないときは、手動でピントを合わせてください。
- 一部のEFレンズやEF-Sレンズ（マウントアダプター EF-EOS Mが必要です）では、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。詳しいことは、キヤノンのホームページでご確認ください。

📷 タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、自動でピント合わせから撮影まで行います。すべての撮影モードで使えます。



1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の [OFF] をタッチします。タッチするたびに、[OFF] と [ON] が交互に切り換わります。
- [ON] (タッチシャッター：する) タッチでピント合わせから撮影まで行います。
- [OFF] (タッチシャッター：しない) タッチでピントを合わせる位置を選択できます。そのあと、シャッターボタンを押して撮影します。



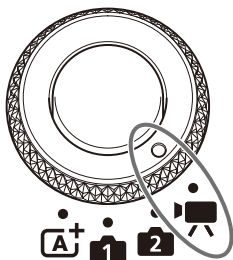
2 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➔ 設定されているAF方式(p.79~83)でタッチした位置でピント合わせが行われます。[ライブ多点AF] 設定時は、[ライブ1点AF] に切り換わります。
- ➔ ピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ピントが合わないときは、AF フレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- [📷] (連続撮影) に設定していても、1枚撮影になります。
- 拡大表示中は、タッチシャッターは機能しません。
- [🔧4: カスタム機能 (C.Fn)] の [5: シャッターボタン/AEロックボタン] が [1: AEロック/AF] [3: AE/AF (AEロックなし)] に設定されていると、ピント合わせが行われずに撮影されます。

4

動画を撮影する



モードダイヤルを〈**映**〉にすると、動画を撮影できます。なお、記録形式はMOV形式です。

- 動画が記録できるカードについては、3ページを参照してください。



Full HD 1080について

Full HD 1080は、垂直画素（走査線）数：1080画素（本のHD（High Definition：ハイディフィニション）映像に対応していることを示しています。



📹 動画を撮影する

撮影した動画は、カメラをテレビに接続して再生することをおすすめします。

自動露出で撮影する

動画の撮影モードで[📹]を選ぶと、自動露出になり、明るさを自動調整します。



1 モードダイヤルを「📹」にする

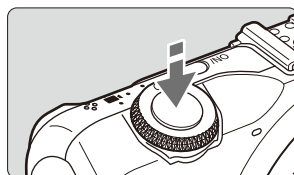


2 画面左上の撮影モードアイコンをタッチする

- 撮影モード選択画面が表示されます。

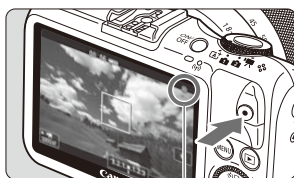


3 撮影モードで「📹」(動画自動露出)を選ぶ



4 ピントを合わせる

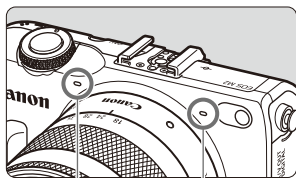
- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせておきます (p.78~83)。
- 初期設定では、[動画サーボ AF: する] になっていますので、常時ピントを合わせています。
- [動画サーボAF] が [する] になっているときは、画面左下の [SERVO AF] をタッチすると、ピント合わせを停止/開始できます。停止すると、AFフレームが灰色に変わります。



動画撮影中

5 動画を撮影する

- ◯ (動画スタート/ストップ) ボタンを押すと動画撮影が始まり、もう一度 ◯ (動画スタート/ストップ) ボタンを押すと動画撮影が終わります。
- ➔ 動画撮影中は画面右上に「●」が表示されます。



マイク

- 動画撮影中はマイクを指でふさがないようにください。

LEDライト付きEXスピードライト（別売）を使う

このカメラは、自動露出で動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、EXスピードライトの使用説明書を参照してください。

⚠ 警告

長時間、身体と同じ箇所に触れたまま使用しないでください。

熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因になる恐れがあります。気温の高い場所で使用する場合や、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使用する場合は、三脚などをお使いください。

動画撮影時の画面

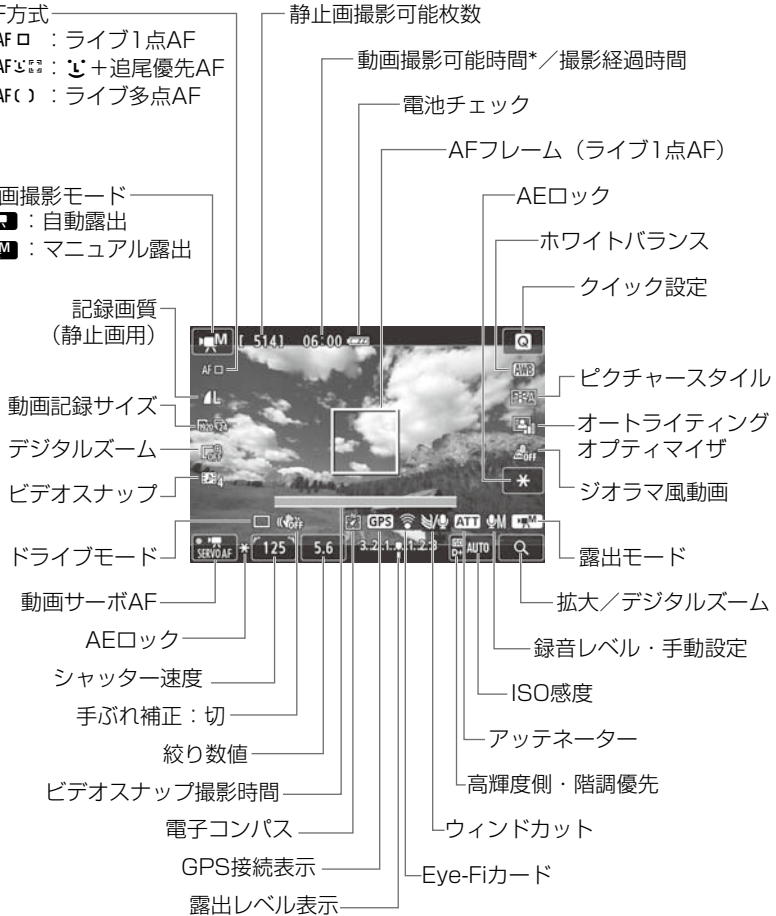
● 〈INFO〉 ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

AF方式

- ・ AF □ : ライブ1点AF
- ・ AF 📍 : 📍 + 追尾優先AF
- ・ AF () : ライブ多点AF

動画撮影モード

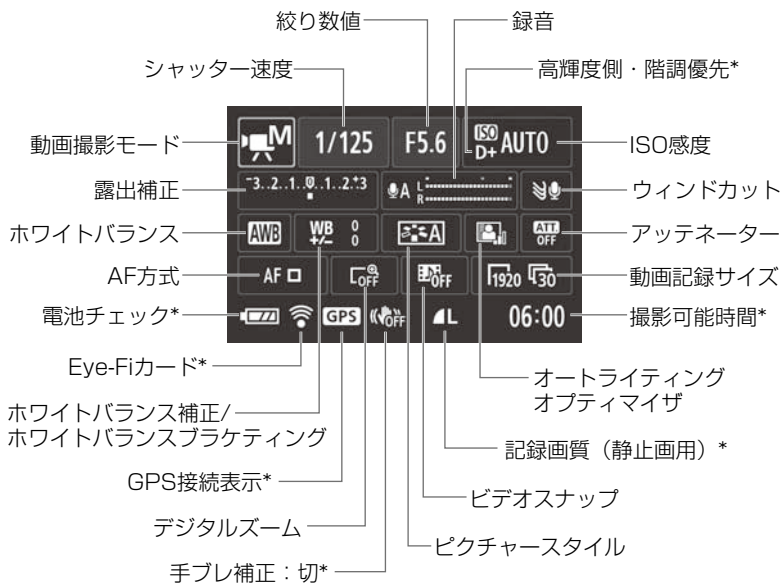
- 📹 : 自動露出
- 📹M : マニュアル露出



* 1回の撮影可能時間です。

📹 「動画撮影可能時間」は撮影が始まると、「撮影経過時間」に変わります。

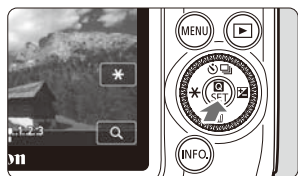
動画撮影時のINFO.クイック設定



- *印の機能は、INFO.クイック画面で設定できません。
- 設定できる項目は撮影モードによって異なります。

動画記録サイズの設定

動画の画像サイズ [****x****] と、フレームレート [FPS] (1秒間に何コマ記録するか) を設定できます。なお、FPS (フレームレート) は、[F2:ビデオ出力方式] の設定により、自動的に切り換わります。



1 クイック設定画面を表示する

- <Q> ボタンを押して表示します。



2 動画記録サイズをタッチする



3 内容をタッチして選ぶ

- 内容をタッチして選び、[↵] をタッチします。

● 画像サイズ

1920 [1920×1080] : フルハイビジョン (Full HD) 画質で記録します。画面の横縦比は16 : 9です。

1280 [1280×720] : ハイビジョン (HD) 画質で記録します。画面の横縦比は16 : 9です。

640 [640×480] : 標準画質で記録します。画面の横縦比率は4:3です。

● フレームレート (fps : frame per second)

30/60 : テレビの映像方式が「NTSC」の地域 (北米、日本、韓国、メキシコなど) で設定します。

25/50 : テレビの映像方式が「PAL」の地域 (ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど) で設定します。

24 : 映画と同じように映像を24コマ/秒で撮影して記録します。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

動画記録 サイズ		総記録時間（約）			ファイルサイズ （約）
		4GBカード	8GBカード	16GBカード	
[1920×1080]	30	11分	22分	44分	330MB/分
	25				
	24				
[1280×720]	60	11分	22分	44分	330MB/分
	50				
[640×480]	30	46分	1時間32分	3時間4分	82.5MB/分
	25				

● ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けられます。

動画撮影を開始してから、ファイルサイズが4GBに達する約30秒前になると、動画撮影画面に表示されている撮影経過時間が点滅します。そのまま撮影を継続し、4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成され、点灯表示に戻ります。

なお、再生時は、動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● 撮影時間の制限について

1回に撮影できる時間は、最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。◀●▶（動画スタート/ストップ）ボタンを押すと、動画撮影を再開できます（新規ファイルとして記録されます）。

🔊 カメラ内部の温度上昇により、上記の表で示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります。



5

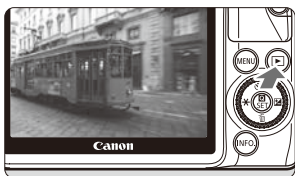
画像の再生

この章では、撮影画像の再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあとにパソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示できないことがあります。

▶ 画像を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押します。
→ 最後に撮影した画像、または最後に再生した画像が表示されます。
- 電源が〈OFF〉のときに〈▶〉ボタンを2秒以上押しすと、電源が〈ON〉になり、再生画面が表示されます。



2 画像を選ぶ

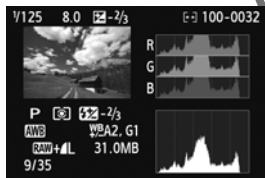
- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から順番に画像が表示されます。
〈▶〉を押すと、最初に撮影した画像から順番に表示されます。
- 〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示する内容が切り換わります。



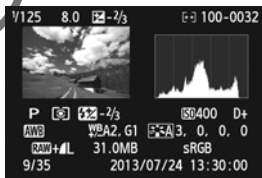
情報表示なし



簡易情報



ヒストグラム



撮影情報

3 再生を終了する

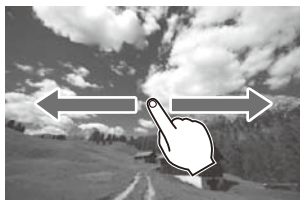
- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、撮影画面に戻ります。

👉 タッチパネルで再生する

液晶モニター（タッチパネル）に指で触れて、いろいろな再生ができます。まず、**◀▶** ボタンを押して画像を再生します（最後に撮影した画像が表示されます）。

電源が切れていても、**◀▶** ボタンを2秒以上押すと、電源が入り、再生画面になります。

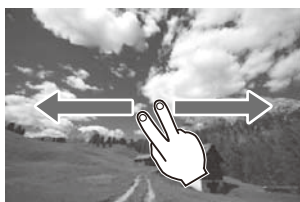
画像を送る



指1本でドラッグする

- 1枚表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れ、左または右に動かすと1枚ずつ画像が送られます。
指を左に動かすと新しい画像、指を右に動かすと古い画像が表示されます。
- 一度に複数の画像を表示するインデックス表示のときは「**指1本**」で液晶モニターに触れ、上または下に動かすと1画面ずつ画像が送られます。指を上動かすと新しい画像、指を下動かすと古い画像が表示されます。画像を選んで、再度タッチすると、1枚表示になります。

画像を飛ばして表示する（ジャンプ表示）



指2本でドラッグする

液晶モニターに「**指2本**」で触れ、左または右に動かすと、**[▶2]** タブの **[🔄での画像送り]** で設定されている方法で、画像を飛ばして表示できます。

画像を縮小表示する（インデックス表示）



2本の指を閉じる

広げた指2本で液晶モニターに触れ、触れたまま指を閉じます。

- 指を閉じるたびに、1枚表示から4枚→9枚→36枚→100枚インデックス表示になります。
- インデックス再生のとき、動画は画像左側に縦帯が付きます。
- インデックス表示中に〈SET〉を押すと、1枚表示になります。また、画像を選んでオレンジ色の枠が付いた画像にもう一度触れると、1枚表示になります。

画像を拡大表示する



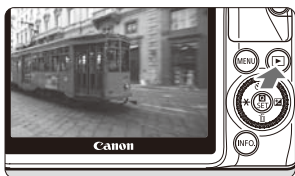
2本の指を開く

閉じた指2本で液晶モニターに触れ、触れたまま指を開きます。

- 指を開くたびに、拡大されます。
- 最大約10倍に拡大できます。
- 指を動かすと、表示位置を移動することができます。
- 指を閉じると縮小します。
- 画面右上の[↶]をタッチすると、1枚表示に戻ります。

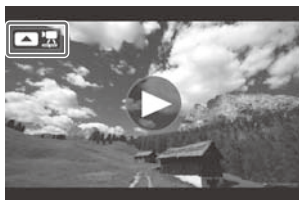
📺 カメラとテレビを接続して、撮影した画像をテレビで再生しているときも、液晶モニターにタッチして操作することができます。

🔊 動画を再生する



1 画像を再生する

- 〈▶〉 ボタンを押して画像を表示します。



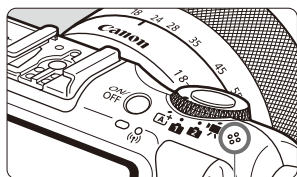
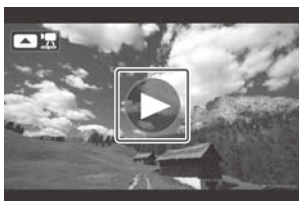
2 動画を選ぶ

- 〈◀〉 〈▶〉 を押して画像を選びます。
- 1枚表示のときに、画面左上に [▶] が表示されている画像が動画です。ビデオスナップで撮影した動画には [▶] が表示されます。
- 〈INFO.〉 ボタンを押すと、撮影情報表示に切り換えられます。
- インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉 を押して1枚表示にします。



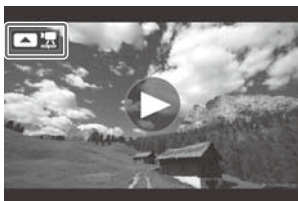
3 画面中央の [▶] をタッチする

- 動画再生が始まります。
- 再生中に画面をタッチすると、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます (p.100)。
- 〈◉〉 を回すと、再生中でも内蔵スピーカーの音量を調整できます。



スピーカー

動画再生パネルを表示する



1枚表示の状態で [🔊] をタッチする
 ➔ 画面の下側に動画再生パネルが表示されます。



動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生/停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈◀〉〈▶〉を押すとスロー再生の速さを変更できます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀ 1 フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると、早戻しします。
▶ 1 フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると、早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します。
🎵 BGM選択*	音楽を選択し、音楽と一緒に動画を再生できます。
▬	再生位置
mm' ss"	再生時間 (mm' : 分、ss" : 秒)
🔊 音量	〈🔊〉を回すと、内蔵スピーカー (p.99) の音量を調整できます。
MENU ↶	1枚表示の状態に戻ります。

* BGMを設定すると、動画に録音されている音声は再生されません。

- フル充電のバッテリーパック LP-E12 で連続再生できる時間は、常温 (+23°C) で約2時間20分です。
- 動画撮影中に静止画を撮影した場面では、約1秒間、静止画が表示されます。

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた



カメラ使用説明書CD-ROMには、下記の電子マニュアル（PDF形式）が収録されています。

● カメラ使用説明書

「基本編」の内容を含む、カメラのすべての機能と操作方法を記載した説明書です。

● Wi-Fi機能 使用説明書

「基本編」の内容を含む、Wi-Fiのすべての機能と操作方法を記載した説明書です。

カメラ使用説明書CD-ROMの見かた

各使用説明書（PDF ファイル）を見るためには、パソコンにAdobe Reader（バージョン6.0以上）がインストールされている必要があります。 Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。パソコンにAdobe Readerをインストールしてから、以下の操作を行ってください。

1 パソコンに「カメラ使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[(マイ) コンピューター] 内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン
- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。



(D:)
CANON

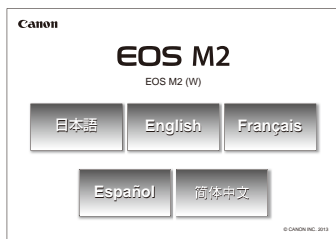


3 「START」のファイルをダブルクリックする

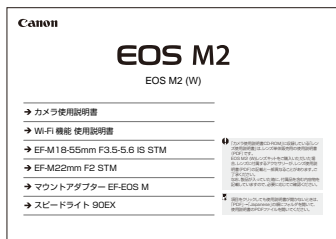
→ 手順4に示す画面が表示されます。

- 表示されるアイコンはパソコンの環境によって異なります。

4 言語を選ぶ



5 見たい使用説明書名をクリックする



→ 希望する言語の使用説明書が表示されます。

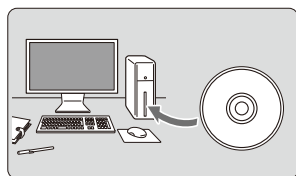


- PDFファイルはパソコンに保存することができます。
- 各使用説明書（PDF ファイル）は、見たいページがすぐに見られるように、ページリンク機能が組み込まれています。目次や索引などでページ番号をクリックすると、そのページへジャンプします。
- Adobe Readerの使い方については、Adobe Readerのヘルプなどを参照してください。

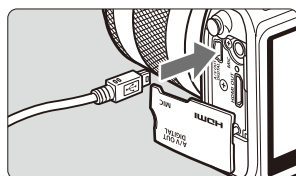
パソコンに画像を取り込む

EOS用ソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込みます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。


カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

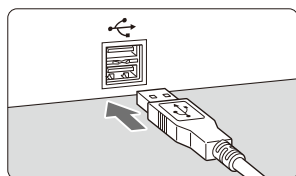


1 ソフトウェアをインストールする (p.107)




2 カメラとパソコンを、付属のインターフェースケーブルで接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、プラグの〈〉が、カメラの背面に向くようにして、〈DIGITAL〉端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子にプラグを差し込みます。



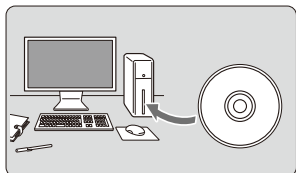
3 EOS Utility を使って、画像を取り込む

- ソフトウェア使用説明書 (CD-ROM) を参照してください。

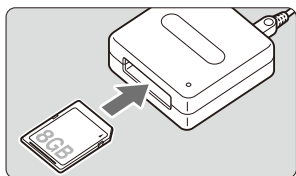
 [▼2: Wi-Fi] が [使う] に設定されているときは、パソコンに画像を取り込むことができません。[使わない] に設定してからインターフェースケーブルを接続してください。

カードリーダーで画像を取り込む

市販のカードリーダーをお持ちの方は、カードリーダーを使って、画像をパソコンに取り込めます。



1 ソフトウェアをインストールする (p.107)



2 カードリーダーに、カードを差し込む

3 ソフトウェアを使って、画像を取り込む

→ Digital Photo Professional を使う

→ ImageBrowser EX を使う

- ソフトウェア使用説明書 (CD-ROM) を参照してください。



EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

ソフトウェアの概要



イオス デジタル ソリューション ディスク
EOS DIGITAL Solution Disk

EOS DIGITAL用の各種ソフトウェアが収録されています。

イオス ユーティリティ
EOS Utility

カメラとパソコンを接続し、撮影画像（静止画／動画）のパソコンへの取り込み、カメラの各種設定などを行うソフトウェアです。また、EOS Sample Music*などのBGMを、カードにコピーできます。

* カメラでビデオスナップアルバムや動画の再生、スライドショーを行うときのBGMとして楽しむことができます。

デジタル フォト プロフェッショナル
Digital Photo Professional

主にRAW画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。RAW画像の高速閲覧／編集／現像／印刷などができます。JPEG画像もオリジナル画像を残したままで編集できます。

ピクチャー スタイル エディター
Picture Style Editor

ピクチャースタイルを編集し、オリジナルピクチャースタイルファイルの作成／保存ができます。画像処理上級者向けのソフトウェアです。

イメージブラウザ イーエックス
ImageBrowser EX

インターネットに接続してダウンロード/インストールを行います*。

主にJPEG画像を撮影される方におすすめのソフトウェアです。簡単な操作で、静止画/MOV動画、ビデオスナップアルバムの閲覧・再生・JPEG画像の編集、およびJPEG画像の印刷などができます。

* ImageBrowser EXのダウンロード/インストールには、EOS DIGITAL Solution Diskが必要です。

🗨️ 従来製品に付属していたソフトウェアZoomBrowser EX/ImageBrowser は、このカメラで撮影した静止画ファイル、MOV動画ファイルをサポートしていません（動作対象外）。ImageBrowser EXを使用してください。

ソフトウェアのインストール

- ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。
- ImageBrowser EXのダウンロード/インストールは、EOS DIGITAL Solution Diskに収録されている他のソフトウェアと同様、以下の手順で行いますが、インターネットに接続されている必要があります。インターネット非接続の環境では、ダウンロード/インストールはできません。
- お使いのパソコンにすでにImageBrowser EXがインストールされている場合でも、以下の手順に従ってImageBrowser EXをインストールしてください。このカメラの機能に対応した最適なバージョンに更新できます。また、オートアップデート機能により、新しい機能を追加できることがあります。
- ImageBrowser EX以外のソフトウェアについても、旧バージョンがインストールされている場合は、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 EOS DIGITAL Solution Disk (CD-ROM) を入れる

- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されたCD-ROMアイコンをダブルクリックして開き、[Canon EOS Digital Installer] をダブルクリックしてください。

2 [おまかせインストール] をクリックし、画面の指示に従って操作する

- Macintoshでは、[インストール] をクリックしてください。
- インストール途中に、“Microsoft Silverlight” インストールの案内画面が表示されたときは、“Microsoft Silverlight” のインストールを行ってください。

3 [再起動] をクリックし、再起動したらCD-ROMを取り出す

- パソコンが再起動したら、インストール完了です。

ソフトウェアの使用説明書



ソフトウェアの使用説明書が収録されています。

使用説明書PDFファイルのコピー方法と見かた

1 パソコンに「ソフトウェア使用説明書」のCD-ROMを入れる

2 CD-ROMのアイコンをダブルクリックする

- Windowsでは、[(マイ) コンピューター] 内に表示されるアイコン
- Macintoshでは、デスクトップ上に表示されるアイコン

3 [Japanese] フォルダをパソコンにコピーする

- 以下の名前の使用説明書PDFファイルがコピーされます。

	Windows	Macintosh
EOS Utility	EUx.xW_J_xx	EUx.xM_J_xx
Digital Photo Professional	DPPx.xW_J_xx	DPPx.xM_J_xx
Picture Style Editor	PSEx.xW_J_xx	PSEx.xM_J_xx

- ImageBrowser EXの使用説明書 (ImageBrowser EXガイド) は、ソフトウェア内に格納されています。

4 コピーしたPDFファイルをダブルクリックする

- パソコンにAdobe Reader (最新版推奨) がインストールされている必要があります。
- Adobe Readerはインターネット上から無料でダウンロードできます。

商標について

- Adobelは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、(社) 電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、(社) 電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された(社)電子情報技術産業協会(JEITA)の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

* 規定により英語で表記しています。



キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南 2-16-6

製品取り扱い方法に関するご相談窓口

お客様相談センター（全国共通番号）

050-555-90002

受付時間：平日 9：00～20：00

土・日・祝日 10：00～17：00

（1月1日～1月3日は休ませていただきます）

- ※ おかけ間違いのないようご注意ください。
- ※ 上記番号をご利用いただけない方は、043-211-9556 をご利用ください。
- ※ IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによりつながらない場合があります。
- ※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

修理受付窓口

別紙の修理受付窓口でご確認ください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

canon.jp/eos

この使用説明書に記載しているレンズ、アクセサリーは、2013年10月時点のものです。それ以降に発売されたレンズ、アクセサリーとの組み合わせにつきましては、上記のお客様相談センターにお問い合わせください。



リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。